

## 35. 千葉市

番号	遺跡名	所在地	遺構名	遺構の種類	時代	出土玉類	石材	文献
5	馬加城遺跡	幕張町	第8号住居址	工房	後	剣形未成品4 有孔円板2 剥片2 原石1	滑石 滑石	189
6	宮脇遺跡	畑町宮ノ後	6号住居跡	竪穴住居		白玉5		91
7	西妻遺跡	積橋町西妻				管玉		抄84
8	新堀遺跡	積橋町	1号住居址	竪穴住居		有孔円板		289
			7号住居址	竪穴住居		紡錘車	滑石	
			8号住居址	竪穴住居		剣形品		
9	新堀込遺跡	小中台町	S14	竪穴住居	後	剣形品1 白玉1		387
10	弥生遺跡	弥生町		表採		管玉	ヒスイ	分②
11	稲毛台東遺跡(東寺山I地区)	東寺山稲毛台	14号住居址	竪穴住居	後	紡錘車未成品1		68
			38号住居址	竪穴住居	奈良	白玉1		
12	駒形遺跡	作草町駒形	C-9号住居址	竪穴住居	後	勾玉1		157
			C-16号住居址	竪穴住居	後	有孔円板2		
			C-21号住居址	竪穴住居	後	紡錘車1	滑石	
			C-25号住居址	竪穴住居		剣形品		
			C-27号住居址	竪穴住居	平安	有孔円板?		
			C-52号住居址	竪穴住居	後	紡錘車		
13	根崎遺跡	千種台		散布地		石製模造品		分②
14	東寺山戸張作遺跡	東寺山戸張作	第3号住居址	工房	後	白玉19 白玉未成品6 有孔円板1	緑泥片岩系	生産5 147
			第4号住居址	工房	後	白玉22 白玉未成品273 勾玉5 勾玉未成品14 剣形品7 剣形品未成品3 有孔円板10 有孔円板未成品4 剥片 原石		
			第5号住居址	工房	後	白玉未成品6 勾玉(模)未成品1		
			第8号住居址	工房		勾玉(模)未成品1		
15	矢作貝塚	矢作町	003住居跡	竪穴住居	古墳	白玉3 紡錘車形石製品1	緑色凝灰岩	199
			005住居跡	竪穴住居	後	白玉1		
			008住居跡	竪穴住居		白玉		
16	西屋敷遺跡	大宮町	001号跡	竪穴住居	後	剣形品1	滑石	168
			009号跡	竪穴住居	後	有孔円板1	滑石	
			015号跡	竪穴住居	後	剣形品1	滑石	
			018号跡	竪穴住居	後	有孔円板2	滑石	
			042号跡	竪穴住居	後	有孔円板1	滑石	

番号	遺跡名	所在地	遺構名	遺構の種類	時代	出土玉類	石材	文献
16	西屋敷遺跡	大宮町	043号跡	竪穴住居	後	剣形品 1	滑石	168
			046号跡	竪穴住居	平安	有孔円板 1	滑石	
			047号跡	竪穴住居	後	剣形品 1	滑石	
			060号跡	竪穴住居	後	勾玉 1	滑石	
			062号跡	竪穴住居	後	有孔円板 1	滑石	
			063号跡	竪穴住居	後	剣形品 1 有孔円板 1	滑石 滑石	
			064号跡	竪穴住居	平安	勾玉 1	滑石	
				グリッド		有孔円板 1 勾玉 1 白玉 1	滑石 滑石 滑石	
17	鷺谷津遺跡	千葉寺町				白玉		抄87
18	荒久遺跡	青葉町	溝018	溝		鎌形品 2	滑石	388
			住居跡104	竪穴住居	後	剣形品 1	滑石	389
19	観音塚遺跡	千葉寺町				有孔円板		抄85
20	大森第一遺跡	大森町	第3号住居址	竪穴住居	後	剣形品 1 有孔円板 2		生産 3 92
			第4号住居址	竪穴住居		剣形品 1		
			第6号住居址	竪穴住居		有孔円板 2 チキリ 1		
			第10号住居址	竪穴住居	中	有孔円板		
			第18A号住居址	竪穴住居		有孔円板 1		
			第25号住居址	工房	中	管玉 2 白玉72 剣形品 2 有孔円板 5 銅片 2	凝灰岩 粘板岩質 粘板岩質 粘板岩質 粘板岩質	
			第26号住居址	竪穴住居	古墳	白玉 4 剣形品 1 有孔円板 2 未成品 1		
			第27号住居址	竪穴住居		剣形品 2 有孔円板 1 円板 1 紡錘車 1	滑石 滑石 滑石 蛇紋岩	
			第30A号住居址	竪穴住居		有孔円板 1		
				溝状遺構		勾玉(模) 1		
				表採		白玉 1 剣形品 1 有孔円板 4		
21	木戸遺跡	大宮町木戸坊		散布地		石製模造品		分(2)
22	川井遺跡	川井町				有孔円板		抄79
23	西花(大森第二)遺跡	大森町西ノ花西ケ作 貝路	第12号住居址	竪穴住居	中	勾玉(模) 1 白玉111 白玉未成品 1 有孔円板 1 円板 1	滑石質 滑石質 滑石質 滑石質 滑石質	生産 4 92
			第17号(B)住居址	竪穴住居	中	管玉 白玉 4	緑色凝灰岩 滑石質	

## 35. 千葉市

番号	遺跡名	所在地	遺構名	遺構の種類	時代	出土玉類	石材	文献
23	西花(大森第二)遺跡	大森町西ノ花西ヶ作 貝路	第21号(E)住居址	竪穴住居	中	白玉7	滑石質	生産4 92
			第31号(A)住居址	竪穴住居	中	白玉1 紡錘車1	滑石質 滑石質	
			第32号(B)住居址	竪穴住居	中	白玉3 円板1 紡錘車1	滑石質 滑石質 滑石質	
			第34号住居址	竪穴住居	中	白玉7 有孔円板1 紡錘車1	滑石質 滑石質 滑石質	
			第35号(B)住居址	工房	中	管玉2 白玉45 白玉未成品3 勾玉(模)1 有孔円板1 紡錘車1	滑石質 滑石質 滑石質 滑石質 滑石質 滑石質	
			第36号住居址	竪穴住居	中	勾玉(模)1	絹雲母片岩	
			第38号(A)住居址	竪穴住居	中	勾玉(模)1 有孔円板1	滑石質 滑石質	
			第40号(A)住居址	竪穴住居		管玉1 白玉10		
			第40号(B)住居址	竪穴住居	中	白玉6		
			第41号遺構	土坑		白玉4		
			第42号(A)住居址	竪穴住居	中	霽玉2 有孔円板1	凝灰岩質 滑石質	
			第42号(B)住居址	竪穴住居	中	白玉1 有孔円板1	滑石質 滑石質	
			第43号(A)住居址	竪穴住居	中	管玉1 白玉6 有孔円板1	凝灰岩質 滑石質 滑石質	
			第43号(B)住居址	竪穴住居		白玉5		
			第46号遺構			白玉3		
			第47号住居址	竪穴住居		勾玉(模)1	滑石質	
			第50号住居址	竪穴住居	中	子持勾玉1 白玉8 玉未成品1	滑石質 滑石質 滑石質	
			第53号住居址	竪穴住居	中	白玉21	滑石質	
			第54号(A)住居址	竪穴住居	中	管玉1 白玉6	滑石質	
			第68号住居址	竪穴住居	中	白玉1 円板1	滑石質 滑石質	
24	榎作遺跡	赤井町榎作	037A	竪穴住居	後	紡錘車1	滑石	実見
			040B	竪穴住居	後	有孔円板1	粘板岩	
			043B	竪穴住居		剣形品1	滑石	
			044A	竪穴住居	後	紡錘車1	滑石	
			044C	竪穴住居	後	白玉1 紡錘車1	滑石 滑石	
			044D	竪穴住居	後	白玉9	滑石・安山岩	
			044E	竪穴住居		勾玉(模)1	メノウ	
			044H	竪穴住居	後	斧形品1	滑石	

番号	遺跡名	所在地	遺構名	遺構の種類	時代	出土玉類	石材	文献
24	榎作遺跡	赤井町榎作	047A	竪穴住居	後	勾玉(模) 1	滑石	実見
			052	竪穴住居	後	白玉 3	滑石	
			061B	竪穴住居		有孔円板 1	滑石	
			075	竪穴住居	後	紡錘車 1	滑石	
			086B	竪穴住居	後	白玉 1	滑石	
			086D	竪穴住居		紡錘車 1	緑色片岩	
			088H	竪穴住居	後	有孔円板 1 紡錘車 1	粘板岩 結晶片岩	
			103	竪穴住居	後	紡錘車 1	滑石	
			105A	竪穴住居	後	有孔円板 1	結晶片岩	
			114	竪穴住居	後	有孔円板 1	滑石	
			117A	竪穴住居	後	紡錘車 2	蛇紋岩・滑石	
			118	竪穴住居	後	管玉 1	珪質凝灰岩	
			126	竪穴住居	後	管玉 1	滑石	
			133	竪穴住居	後	丸玉 1	滑石	
			137C	竪穴住居		紡錘車 1	滑石	
			147	竪穴住居	後	管玉 1	滑石	
			153	竪穴住居		有孔円板 1	滑石	
			158	竪穴住居	後	紡錘車 1	滑石	
			159	竪穴住居		剣形品 1	滑石	
			166	竪穴住居	後	紡錘車 2	滑石	
			179	竪穴住居	後	未成品 1	滑石	
			187	竪穴住居	後	紡錘車 1	滑石	
			190	竪穴住居	後	管玉 1 白玉 1	珪質緑色凝灰岩 滑石	
			200	竪穴住居	後	管玉 1	珪質凝灰岩	
201	竪穴住居	後	白玉 1	滑石				
218	竪穴住居	後	紡錘車 2	滑石				
			グリッド		管玉 1 白玉 2 未成品 1	チャート 滑石 凝灰岩		
25	谷津遺跡	花輪町谷津	1号住居址	竪穴住居	平安	管玉 1	ヒスイ	258
			7号住居址	竪穴住居	後	紡錘車	緑色片岩	
			21号住居址	竪穴住居	平安	有孔円板 1	滑石	
			42号住居址	竪穴住居	後	白玉 2	滑石	
			43号住居址	竪穴住居	後	有孔円板 1	滑石	
			67号住居址	竪穴住居	後	紡錘車	凝灰岩	
			69号住居址	竪穴住居	後	勾玉	メノウ	
			84号住居址	竪穴住居	後	勾玉	ヒスイ	
			151号住居址	竪穴住居	後	白玉 2	滑石	
26	有吉遺跡	有吉町上赤塚	001号址	竪穴住居	後	有孔円板 1		117
			005号址	竪穴住居	中	白玉 1		
			105号址	竪穴住居	後	白玉 1 紡錘車 1		
27	種ヶ谷津遺跡	生実町種ヶ谷津	014竪穴住居	竪穴住居		紡錘車 1	滑石	390
			301溝状遺構	溝状遺構		有孔円板 1	滑石	
28	南二重堀遺跡	生実町南二重堀	28号住居址	竪穴住居	前	勾玉(模) 1	滑石	233
			46号住居址	竪穴住居	前	紡錘車 1	滑石	
			63号住居址	竪穴住居	前	有孔円板 1	滑石	

35. 千葉市

番号	遺跡名	所在地	遺構名	遺構の種類	時代	出土玉類	石材	文献
29	馬ノ口遺跡	有吉町馬ノ口	63号住居址	竪穴住居	中	白玉1 白玉未成品1 剣形品4 有孔円板4	滑石 滑石 滑石 滑石	259
			100号住居址	竪穴住居		白玉1	滑石	
30	誉田コロニー内遺跡	誉田町		Kグリッド		剣形品1 有孔円板1		135
31	木戸作遺跡	椎名崎町道作	2号址	竪穴住居	後	白玉1		118
32	ムコアラク遺跡	大金沢町六通台	DW27	竪穴住居	後	紡錘車1		170
			DW37	竪穴住居	後	紡錘車1		
33	椎名崎遺跡	椎名崎町道作	133号址	竪穴住居	後	紡錘車1		169
34	文六第五遺跡	小食土町				勾玉 紡錘車		抄85
35	鎌取遺跡	鎌取町鎌取	032	竪穴住居		刀子形1		抄85 実見
			035	竪穴住居		勾玉1		
			044	竪穴住居		勾玉1 紡錘車1		
			045	竪穴住居		白玉 紡錘車2		
			047	竪穴住居		有孔円板1 鎌形品1		
			050	竪穴住居		白玉1 勾玉(模)1		
36	村田服部遺跡	村田町		包含層	古墳	白玉		290
37	箕輪遺跡	畑町	001号住居址	工房?	中	原石1 剥片2	滑石 滑石	291
			002号住居址	竪穴住居	中	有孔円板1	滑石	
			005号住居址	工房?	中	破片	滑石	
			007号住居址	竪穴住居	中	剣形品1	滑石	
			008号住居址	工房?		破片4 原石1	滑石	
			015号住居址	竪穴住居	中	石製品1	珪質頁岩	
38	大道遺跡	生実町尼田大道	007号住居址	竪穴住居	奈良	勾玉1	滑石	235
			010号住居址	竪穴住居	後	紡錘車1	滑石	
			012号住居址	竪穴住居	奈良	勾玉1	粘板岩	
			035号住居址	竪穴住居	後	管玉1	頁岩	

36. 山武郡芝山町

1	殿部田遺跡	殿部田	6号住居址	竪穴住居		剥片		生産48
			7号住居址	工房		有孔円板 剥片		105
2	上吹入遺跡	上吹入	第1号住居址	工房	中	管玉 白玉 白玉未成品 剣形品 有孔円板 円板 剥片		生産47 171
			第2号住居址	工房	中	白玉未成品 剣形品		

番号	遺跡名	所在地	遺構名	遺構の種類	時代	出土玉類	石材	文献
2	上吹入遺跡	上吹入	第2号住居址	工房	中	剥片 原石		生産47 171
			第4号住居址	工房	中	白玉 白玉未成品 剣形品 有孔円板		
			第5号住居址	工房	中	白玉未成品 剥片		
3	宮門遺跡	大台宮門	1号住居跡	竪穴住居	古墳	剥片		生産46 105
			3号住居跡	竪穴住居	古墳	有孔円板 1		
			4号住居跡	工房	中	剣形品21 有孔円板 5 剥片 原石		
			016号住居跡	竪穴住居	中	剣形品	雲母片岩	439
4	小池新林遺跡	小池	005号住居跡	竪穴住居	後	管玉 1 紡錘車	碧玉	292
				グリッド		有孔円板 紡錘車		
5	三田遺跡	小池	009号住居跡	竪穴住居	後	有孔円板 1		391
			013号住居跡	竪穴住居	後	紡錘車		
			015号住居跡	竪穴住居	後	管玉 1 紡錘車 1		
			016号住居跡	竪穴住居	後	有孔円板 1		
			037号住居跡	竪穴住居	後	剣形品 1		
			044号住居跡	竪穴住居	後	白玉 8		
			046号住居跡	竪穴住居	後	不明 1	滑石	
			049号住居跡	竪穴住居	後	紡錘車 1		
			055号住居跡	竪穴住居	後	有孔円板 2		
			056号住居跡	竪穴住居	後	紡錘車 2 勾玉(模) 1		
			060号住居跡	竪穴住居	後	管玉 1		
			061号住居跡	竪穴住居	後	勾玉(模) 1		
			070号住居跡	竪穴住居	後	剣形品 1		
			088号住居跡	竪穴住居	後	勾玉 1		
092号住居跡	竪穴住居	後	有孔円板 1					
097号住居跡	竪穴住居	後	勾玉(模) 1					
105号住居跡	竪穴住居	中	勾玉(模) 1					
6	小池地蔵遺跡	小池地蔵		グリッド		紡錘車 1		292
7	下吹入東台遺跡	下吹入	1号住居址	工房	中	白玉 3 紡錘車 1 紡錘車未成品 1	滑石 滑石 滑石	340
			3号住居址	工房	中	管玉 1 棗玉 1 白玉41 白玉未成品 3 勾玉(模) 1 勾玉(模)未成品1 有孔円板10	滑石 コハク 滑石 滑石 滑石 滑石	

## 36. 山武郡芝山町

番号	遺跡名	所在地	遺構名	遺構の種類	時代	出土玉類	石材	文献
7	下吹入東台遺跡	下吹入	3号住居址	工房	中	紡錘車1 未成品 剥片	滑石 コハク コハク	340

## 37. 香取郡多古町

1	新城遺跡	西古内字新城	3号住居跡	竪穴住居	後	白玉1	滑石	316
			13号住居跡	竪穴住居		有孔円板1 紡錘車1	滑石 滑石	
			22号住居跡	竪穴住居		丸玉1	滑石	
2	林遺跡	林字長井戸	27号住居跡	竪穴住居	後	紡錘車	滑石	生産42 293
			93号住居跡	竪穴住居	後	石製品未成品		
			94号住居跡	竪穴住居	中	紡錘車 有孔円板4	滑石	
			97号住居跡	竪穴住居	後	剣形品未成品 有孔円板2	滑石	
			100号住居跡	竪穴住居	中	勾玉(模) 有孔円板2 紡錘車	滑石 滑石 滑石	
			104号住居跡	工房	中	白玉 白玉未成品 有孔円板	滑石 滑石 滑石	
			105号住居跡	工房	中	白玉 白玉未成品	滑石 滑石	
106号住居跡	工房	中	剣形品 有孔円板	滑石 滑石				
108号住居跡	竪穴住居	中	剣形品1 有孔円板1	滑石 滑石				
3	馬場ノ台遺跡	南玉造字馬場台		散布地		勾玉 有孔円板 紡錘車	滑石	105
4	大原遺跡	大原字台畑						236
5	駒木台(岩坂)遺跡	岩坂	1号住居跡	竪穴住居	後	管玉1	碧玉	315
6	八田遺跡	小櫃	第2号住居跡	竪穴住居	奈良	小玉 円板		237
7	大谷遺跡	東松崎字大谷		散布地		小玉 石製模造品		分(2)
8	土持台遺跡	水戸字土持台	1号跡	竪穴住居	後	白玉未成品1 剣形品1 有孔円板5		317
			4号跡	竪穴住居	後	白玉2		
			19号跡	竪穴住居	後	紡錘車1	蛇紋岩	
9	坊田遺跡	南和田字坊田	1号跡	竪穴状遺構	古墳	勾玉	蛇紋岩	315
10	椿湖神社付近	久賀				剣形品		72

## 38. 八日市場市

1	大堀遺跡	大堀字水喰台		散布地		白玉		分(2)
2	小山遺跡	飯塚字小山	41号址	竪穴住居	中	有孔円板1 勾玉1		318
3	広之台遺跡	飯塚字広之台	18号址	竪穴住居	中	管玉1	滑石	318

番号	遺跡名	所在地	遺構名	遺構の種類	時代	出土玉類	石材	文献
3	広之台遺跡	飯塚字広之台	22号址	竪穴住居	前	管玉1	滑石	318
4	柳台遺跡	飯塚字柳台	108号址	竪穴住居	後	有孔円板1	滑石	318
			139号址	竪穴住居		紡錘車1		
			217号址	竪穴住居	中	有孔円板1	滑石	

## 41. 銚子市

1	西町遺跡	長塚町	1号土壌	土壌		勾玉1	メノウ	260
			3号住	竪穴住居	後	剣形品1		
2	野尻遺跡	外川町	14号遺構			勾玉	緑泥片岩	158
			第16号住居址	竪穴住居	後	棗玉	コハク	
			第17号住居址	竪穴住居	後	管玉	碧玉	
			第26号住居址	竪穴住居	後	勾玉	ヒスイ	
			第28号住居址	竪穴住居	後	勾玉	チャート	
			第51号住居址	竪穴住居	後	管玉	滑石	
3	下之口遺跡	小浜下之口		散布地		石製模造品		分(2)
4	篠竹遺跡	正明寺町		散布地		石製模造品(未成品)		分(2)
5		三崎町				剣形品 有孔円板		22

## 42. 山武郡山武町

1		下布田				子持勾玉		218
---	--	-----	--	--	--	------	--	-----

## 44. 山武郡松尾町

1	古和大塚遺跡	古和		表採		刀子形品		105
---	--------	----	--	----	--	------	--	-----

## 45. 匝瑳郡光町

1	小田部遺跡	小田部		表採		剣形品		105
---	-------	-----	--	----	--	-----	--	-----

## 49. 東金市

1	道庭遺跡	道庭		工房	古墳	剣片	滑石	生産45
2	久我台遺跡	松之郷久我台	SI23	竪穴住居	後	勾玉	メノウ	366
			SI18	竪穴住居	平安	紡錘車		
			SI24	竪穴住居	平安	紡錘車		
			SI38	竪穴住居	平安	紡錘車		
			SI39	竪穴住居	平安	紡錘車		
			SI70	竪穴住居	奈良	紡錘車		
			SI95	竪穴住居	平安	紡錘車		
			SI103	竪穴住居	後	紡錘車		
			SI108	竪穴住居	後	紡錘車		
			SI133	竪穴住居	後	紡錘車		
			SI199	竪穴住居		勾玉	メノウ	
			SI242	竪穴住居	後	紡錘車		
			SI243	竪穴住居		紡錘車		
3	平蔵台遺跡	松之郷字金谷	B区			勾玉		69
			A区			有孔円板		



## 49. 東金市

番号	遺跡名	所在地	遺構名	遺構の種類	時代	出土玉類	石材	文献
3	平蔵台遺跡	松之郷字金谷	A区			紡錘車		69
4	妙経遺跡	松之郷	SI003	竪穴住居	後	丸玉1		実見
			SI010	竪穴住居	後	罫玉1	コハク	
			SI017	竪穴住居	後	丸玉1		
			SI027	竪穴住居	後	丸玉1		
			SI113	竪穴住居	後	丸玉1		

## 50. 山武郡大網白里町

1	南前野遺跡	金谷郷字前野				勾玉		抄84
2	中林跡	砂田		包含層		有孔円板		抄85

## 52. 市原市

1	土字大城台遺跡	土字大城台			古墳?	石製模造品		抄75・76	
2	山倉用服遺跡	山倉用服			古墳	勾玉		分(3)	
3	南中台遺跡	惣社				石製模造品		抄72・73	
4	加茂遺跡A・B	加茂字内山				石製模造品		抄74・75	
5	川焼台遺跡	草刈字川焼台	299号址		古墳	管玉1 有孔円板1	緑色凝灰岩 滑石	実見	
			G5-8グリッド			大型子持勾玉1	粘板岩		
6	鶴牧遺跡	草刈字鶴牧				石製品 玉類		抄85	
7	押沼第1遺跡	押沼字新田谷		包蔵地		管玉		県年89	
8	五所四反田遺跡	五所字四反田	39号溝	溝	中	子持勾玉 石製模造品		442	
9	市原条里制遺跡実信地区	菊間字実信		包含層	前	大型管玉1 勾玉1	碧玉 メノウ	実見	
10	市原条里制遺跡市原地区	市原		包含層		勾玉1	メノウ	実見	
11	ばあ山遺跡	草刈字大坪		表採		勾玉(丁字頭)1	滑石	191	
12	草刈遺跡A区	草刈字下切付他	2号跡	竪穴住居	前	勾玉1	碧玉貫	239	
			30号跡	竪穴住居	中	勾玉(粗製)1 白玉(欠損)1	滑石 滑石		
			74号跡	竪穴住居	古墳	管玉1	緑色凝灰岩		
13	草刈遺跡B区 (貝塚)	草刈	230-A号址			有孔円板1	滑石	321	
			387-A号址	竪穴住居	後	紡錘車1	滑石		実見
			427号址	竪穴住居	後	紡錘車1	滑石		
14	草刈遺跡C区	草刈	123-B号址			紡錘車形石製品1	緑色凝灰岩	実見	
15	草刈遺跡G区	草刈	170号址			紡錘車1	滑石	実見	
16	草刈遺跡H区	草刈	317号址			管玉1	蛇紋岩	実見	
17	草刈遺跡I区	草刈	057号址			有段紡錘車1	緑色凝灰岩	実見	
			385号址			管玉3	緑色凝灰岩		
18	草刈遺跡	草刈	29号址	祭祀関連?	古墳	有孔円板2	輝緑片岩	294	
19	草刈貝塚	草刈字扇谷津		グリッド		勾玉未成品1		421	
20	原遺跡	姉崎字原	第23号住居址	竪穴住居	中	白玉13 勾玉(模)1 有孔円板3	滑石 滑石 滑石	262	
						表採	勾玉1		蛇紋岩

番号	遺跡名	所在地	遺構名	遺構の種類	時代	出土玉類	石材	文献
21	大厩遺跡	大厩	K-6号址	竪穴住居	後	白玉1	滑石	107
			K-9号址	竪穴住居	後	剣形品1	滑石	
22	姉崎台遺跡	姉崎字台	2-2-拡トレンチ	包含層	古墳	剣形品1	滑石	70
23	番後台遺跡	養老字番後台北方	019号住居跡	竪穴住居	中	剣形品2 有孔円板1 紡錘車	滑石 滑石 滑石	217
			025号住居跡	竪穴住居	中	剣形品2	滑石	
			039E号住居跡	竪穴住居	中	管玉1	滑石	
			044号住居跡	竪穴住居	中	剣形品1 有孔円板1	滑石 滑石	
			072C号住居跡	竪穴住居	中	管玉1	滑石	
				表採		有孔円板2 剣形品1	滑石 滑石	
24	潤井戸西山遺跡	潤井戸字西山	K-5号住居跡	竪穴住居	後	管玉1	蛇紋岩	320
			K-14号住居跡	竪穴住居	後	勾玉1	蛇紋岩	
			K-16号住居跡	竪穴住居	後	白玉1	蛇紋岩	
			K-21号住居跡	竪穴住居	前	垂飾品1	蛇灰岩	
25	下鈴野遺跡	潤井戸字上清水谷	02号住居跡	竪穴住居	前	勾玉	滑石	342
			19号住居跡	竪穴住居	前	管玉3	蛇紋岩	
						管玉2 勾玉1 勾玉1 白玉(小玉)1	滑石 ヒスイ メノウ 蛇紋岩	
			20号住居跡	竪穴住居	前	紡錘車形石製品1	緑色凝灰岩	
			21号住居跡	竪穴住居	前	勾玉1	滑石	
26	皿郷田茂遺跡	平野	1号遺構	竪穴住居	前	管玉1	滑石	264
27	山見塚遺跡	立野字山見塚	36トレンチ	包含層		勾玉	滑石	343
28	文作遺跡	葉木字文作	竪穴住居73	竪穴住居	後	管玉1	緑色凝灰岩	395
			竪穴住居74	竪穴住居	後	双孔円板1	蛇紋岩	
			竪穴住居76	竪穴住居	平安	勾玉1	蛇紋岩	
			土坑13	土坑	古墳	歯玉未成品1	コハク	
29	神崎祭野遺跡(仮)	神崎祭野		表採	古墳	勾玉(模)1 有孔円板2	滑石? 滑石?	
30	姉崎宮山遺跡	姉崎字宮山	05遺構	竪穴住居	後	管玉1 白玉(小玉)8	滑石 滑石	443
31	小田部向原遺跡	小田部字向原	01遺構	周溝		磨製石剣(剣形品)1 有孔円板2	蛇紋岩 滑石	443
32	草刈六之台遺跡	草刈字六之台	929号址	玉作工房	前	勾玉 管玉 管玉未成品 刷片		実見 県年13 270・407
			23号址	溝		剣形品2 管玉2 管玉未成品2	滑石 滑石 緑色凝灰岩	
			57号址	竪穴住居	後	剣形品1	滑石	
			63号址	竪穴住居	後	有孔円板1 切子玉1	滑石 水晶	
			71号址	竪穴住居	後	有孔円板1	滑石	
			92号址	竪穴住居	前	管玉1	滑石	

## 52. 市原市

番号	遺跡名	所在地	遺構名	遺構の種類	時代	出土玉類	石材	文献
32	草刈六之台遺跡	草刈字六之台	112号址	竪穴住居	後	白玉1	滑石	実見 県年13 270~407
			120号址	竪穴住居	後	勾玉(模)1 有孔円板1 白玉27	滑石 滑石 滑石	
			121号址	竪穴住居	後	有孔円板2 白玉3	滑石 滑石	
			123号址	竪穴住居	前	白玉1	滑石	
			137号址	竪穴住居	後	勾玉(模)1	滑石	
			138号址	竪穴住居	後	白玉2	滑石	
			140号址	竪穴住居	後	有孔円板1 白玉24	滑石 滑石	
			147号址	竪穴住居	後	白玉2	滑石	
			150号址	竪穴住居	後	有孔円板1 白玉1	滑石 滑石	
			156号址	竪穴住居	後	白玉3	滑石	
			158号址	竪穴住居		白玉3	滑石	
			159号址	竪穴住居	後	白玉22	滑石	
			212号址	竪穴住居	後	有孔円板3	滑石	
			227号址	竪穴住居		管玉1	緑色凝灰岩	
			251号址			有孔円板1	滑石	
			310号址	竪穴住居	後	白玉2 有孔円板1	滑石 滑石	
			311号址	竪穴住居	前	白玉2 管玉1	滑石 緑色凝灰岩	
			313号址	竪穴住居	後	白玉2	滑石	
			316号址	竪穴住居	後	白玉3	滑石	
			343号址			管玉1	緑色凝灰岩	
			373号址	竪穴住居	後	白玉1	滑石	
			389号址	竪穴住居	前	有孔円板1	滑石	
			742号址	竪穴住居	後	剣形品1	滑石	
			745号址	竪穴住居	後	丸玉1	蛇紋岩	
			748号址	竪穴住居	平	勾玉(模)1	滑石	
			770号址	竪穴住居	後	有孔円板2	滑石	
			776号址	竪穴住居	平	白玉1	滑石	
			778号址	竪穴住居	後	白玉1	滑石	
			803号址	竪穴住居	前	白玉1	滑石	
			806号址	竪穴住居	後	白玉1	滑石	
			818号址	竪穴住居	後	白玉3	滑石	
			821号址	竪穴住居	後	有孔円板2	滑石	
			825号址	竪穴住居	後	勾玉(模)1	滑石	
			849号址	竪穴住居	後	白玉1	滑石	
			850号址	竪穴住居	平	勾玉1 白玉1	滑石 滑石	
			852号址			白玉1	滑石	
			853号址	土壇		白玉1	滑石	
			854号址	竪穴住居	前	白玉1	滑石	
			864号址	竪穴住居	後	白玉8	滑石	
			865号址	竪穴住居	後	白玉2	滑石	

番号	遺跡名	所在地	遺構名	遺構の種類	時代	出土玉類	石材	文献
32	草刈六之台遺跡	草刈字六之台	870号址			白玉5 勾玉(模)1	滑石 滑石	実見 県年13 270~407
			902号址	ビット		白玉1	滑石	
			903号址	ビット		白玉2	滑石	
			932号址	溝		白玉1	滑石	
			935号址	ビット		勾玉未成品1	滑石	
			940号址	ビット		白玉1	滑石	
			961号址			勾玉(模)1 有孔円板未成品1	滑石 滑石	
			963号址			勾玉1 剣1 刀子1		
			1004A号址			管玉1	緑色凝灰岩	
		グリッド		白玉63 剣形品2 有孔円板2 勾玉(模)1 管玉2 管玉未成品1 紡錘車1 鏡形1	滑石 滑石 滑石 滑石 滑石 緑色凝灰岩 砂岩 滑石			
33	中永谷遺跡	草刈字中永谷	1号住居跡	竪穴住居	後	管玉1		444
			4号住居跡	竪穴住居	後	白玉1		
			21号住居跡	竪穴住居	後	有孔円板3	滑石	
			32号住居跡	竪穴住居	後	白玉1		
			70号住居跡	竪穴住居	後	管玉1	碧玉	

## 53. 長生郡長柄町

1	落井遺跡	長柄山・落井		包含層	古墳	石製模造品		分(3)
---	------	--------	--	-----	----	-------	--	------

## 54. 茂原市

1	中鹿子第2遺跡	桂字内野				玉類 紡錘車		分(3)
---	---------	------	--	--	--	-----------	--	------

## 57. 長生郡長南町

1	今泉遺跡	今泉字堀之内外	C地点F5-83グリッド	包含層		管玉1	ヒスイ	423
			C地点F5-94グリッド	包含層		丸玉1	滑石	
2	根台遺跡	芝原字根台		包含層	前	子持勾玉1	滑石	実見

## 58. 長生郡睦沢町

1	熊野神社裏遺跡	寺崎		包含層	古墳	子持勾玉1 紡錘車		分(3)
---	---------	----	--	-----	----	--------------	--	------

## 60. 袖ヶ浦市

1	金井崎遺跡	神納・金井崎			古墳	石製模造品		分(3)
2	宮ノ台遺跡	岩井字宮ノ台		製作遺跡 祭祀遺跡	古墳	白玉6 剣形品24 有孔円板12 破片7	滑石? 滑石 滑石 滑石	生産53 47

## 60. 袖ヶ浦市

番号	遺跡名	所在地	遺構名	遺構の種類	時代	出土玉類	石材	文献
2	宮ノ台遺跡	岩井字宮ノ台		製作遺跡 祭祀遺跡		石屑 7 石 紡錘車 1	滑石 滑石 滑石	生産53 47
3	野田遺跡	野田		工房	古墳	白玉 白玉未成品 管玉 管玉未成品 原石	滑石 滑石 碧玉 滑石 滑石	生産54 123
4	念仏塚遺跡	岩井字念仏塚	B-02-10グリッド	包含層		剣形品 1	滑石	344
			A-08-04グリッド	包含層		双孔円板 1	滑石	
5	大竹遺跡群 二又堀遺跡	大竹			古墳	勾玉 管玉		君年90
6	大竹遺跡群 尾畑台遺跡	下根岸字尾畑台			古墳	勾玉 石製模造品		君年90
7	大竹遺跡群 向神納里遺跡	下根岸字鞍ノ台			古墳	管玉		君年90
8	大竹遺跡群 向神納里遺跡	大竹字神納里台			古墳	有孔円板	石製	君年90
9	文脇遺跡	野里	192号住居址	工房	古墳	白玉 白玉未成品 勾玉(模)未成品 1 剣形品 原石	滑石 滑石 滑石 滑石	427
10	美生遺跡群第1地点	久保田字小台台				勾玉		君年90
11	美生遺跡群第7地点	久保田字須多連	第9号住居址	竪穴住居	前	管玉 1	滑石	君年91
12	滝ノ口向台遺跡	滝ノ口向台		祭祀跡	古墳	子持勾玉 1 白玉 3 有孔円板 4 紡錘車 3		分3) 47
13	境遺跡	下新田	第23号住居址	竪穴住居	前	勾玉 1	蛇紋岩	295

## 61. 木更津市

1	菅生遺跡	菅生・睦喜		包含層		璽玉 1 丸玉 2 白玉 3 剣形品 1		173
2	大山台遺跡	請西字大山台	第4号住居址	竪穴住居	中	勾玉(模) 1 有孔円板 1	滑石 滑石	150
			第253号住居址	竪穴住居	中	有孔円板 1	滑石	
			第281号住居址	竪穴住居	中	勾玉 1		
			第121号住居址	竪穴住居	古墳	剣形品 1 有孔円板 1	滑石 滑石	
			第247号住居址	竪穴住居		勾玉 剣形品		
			第240号住居址	竪穴住居		白玉15 有孔円板 1		
			第148号住居址	竪穴住居		有孔円板 1		
		第176号住居址	竪穴住居		勾玉 1 剣形品 1 有孔円板 1			

番号	遺跡名	所在地	遺構名	遺構の種類	時代	出土玉類	石材	文献
2	大山台遺跡	請西字大山台	第245号住居址	竪穴住居		有孔円板 1		150
			第246号住居址	竪穴住居		有孔円板 1		
			第1号住居址	竪穴住居	古墳	勾玉(模) 1		
			第251号住居址	竪穴住居	古墳	有孔円板 1		
			第258号住居址	竪穴住居	古墳	有孔円板 1		
			第259号住居址	竪穴住居	古墳	勾玉(模) 1		
3	山伏作遺跡	請西	第5号住居址	竪穴住居	中	剣形品 1		150
4	花山遺跡	矢那字花山	4号住居跡	竪穴住居	後	勾玉 1 丸玉 1		367
			7号住居跡	竪穴住居	古墳	有孔円板		
			27号住居跡	竪穴住居	後	剣形品片 1		
			35号住居跡	竪穴住居	後	勾玉 1 丸玉 1		
			78号住居跡	竪穴住居	後	丸玉 1		
			156号住居跡	竪穴住居	後	丸玉 1 小玉 1 白玉10 有孔円板 1		
			158号住居跡	竪穴住居	後	勾玉 1 円板 1		
5	マミヤク遺跡	小浜字マミヤク	171号住居跡	竪穴住居		有孔板 1		396
			49号住居跡	竪穴住居	前	勾玉 1	ヒスイ	
			53号住居跡	竪穴住居	中	白玉 1	滑石	
			64号住居跡	竪穴住居	中	白玉 1	滑石	
			66号住居跡	工房	中	白玉未成品15 剥片約60	滑石 滑石	
			149号住居跡	竪穴住居	中	剣形品 2	滑石	
			152号住居跡	竪穴住居	中	白玉 1	滑石	
			1号祭祀遺構	祭祀跡	中	管玉 1 白玉2247 白玉未成品12 勾玉(模) 4 剣形品 6 有孔円板12 鏡形品 1 鏡形品未成品 2 荒割剥片 9	碧玉 滑石 滑石 滑石 滑石 滑石 滑石 滑石	
			2号祭祀遺構	祭祀跡	中	勾玉(模) 1 有孔円板 2 白玉13	滑石 滑石 滑石	
			52号住居跡	竪穴住居	後	有孔円板 1	滑石	
			141号住居跡	竪穴住居	後	白玉 1	滑石	
			142号住居跡	竪穴住居	後	原石 1	メノウ	
			6	宮脇遺跡	田川字屋谷			
7	浜清水遺跡	畑沢字浜清水	1号住居跡	竪穴住居	中	白玉 9	滑石	424
			2号住居跡	竪穴住居	中	白玉 3 有孔円板 1	滑石 滑石	
8	丹邊遺跡	茅野字祈禰町		竪穴住居	古墳	白玉 剣形品 有孔円板	滑石 滑石 滑石	369

## 61. 木更津市

番号	遺跡名	所在地	遺構名	遺構の種類	時代	出土玉類	石材	文献
9	蓮華寺遺跡	矢那字蓮華寺	017号住居跡	竪穴住居	前	勾玉 1	ヒスイ?	370
10	依ヶ谷遺跡	小浜字房谷		竪穴住居	古墳	管玉 白玉 有孔円板	滑石 滑石 滑石	371
11	芝野遺跡	上望陀	SE-002	井戸	古墳	管玉 1	緑色凝灰岩	実見
12	請西遺跡群鹿島塚B遺跡	請西字鹿島塚		竪穴住居	古墳	紡錘車 有孔円板 管玉	滑石?	君年91
13	請西遺跡群中郷谷遺跡	請西字中郷谷			古墳	勾玉 紡錘車		君年91
14	川崎長六台遺跡(仮)	根岸字川崎			古墳	剣形品 1	滑石?	47

## 62. 君津市

1	外箕輪遺跡					石製品		398
2	新御堂荘台遺跡	新御堂・中荘台		包含層 (製作遺跡)		白玉 剣形品 有孔円板		生産52 23・297・ 427
3	富崎神社裏遺跡(仮)	戸崎			古墳	白玉 白玉(模) 剣形品 有孔円板		分(3) 47
4	郡条里遺跡	郡字切田				勾玉(模) 剣形品	滑石?	分(3)
5	常代遺跡	常代字上槍添				管玉 紡錘車		君年91
6	上野台遺跡	貞元・四筋				勾玉(模)		分(3)
7	天神台遺跡	上字天神台				勾玉		君年91

## 63. 富津市

1	大明神原遺跡	岩瀬字大明神原		表採 玉作工房?		管玉未成品 1 勾玉?	碧玉	200
2	打越遺跡	飯野字打越				勾玉 管玉		抄89
3	加藤遺跡	加藤字入道下		竪穴住居	後?	勾玉	滑石	君年91

## 64. 夷隅郡夷隅町

1	台遺跡	行川字台				勾玉 管玉		分(3)
---	-----	------	--	--	--	----------	--	------

## 66. 夷隅郡大多喜町

1	舟子遺跡	森宮		包含層		玉類		分(3)
---	------	----	--	-----	--	----	--	------

## 72. 安房郡鋸南町

1	田子台遺跡	下佐久間字田子台		表採		有孔石製品 1	滑石	19
---	-------	----------	--	----	--	---------	----	----

## 73. 安房郡富山町

1	寿楽台遺跡	高崎字若宮				有孔石製品 1	滑石	19
---	-------	-------	--	--	--	---------	----	----

## 76. 安房郡丸山町

番号	遺跡名	所在地	遺構名	遺構の種類	時代	出土玉類	石材	文献
1	莫越山神社遺跡	宮下字石神畑・東畑		祭祀跡		喪玉	コハク?	分(3)

## 78. 館山市

1	沼大戸入遺跡	沼字大戸入			古墳	白玉		
---	--------	-------	--	--	----	----	--	--

## 80. 安房郡白浜町

1	見上遺跡	滝口字見上			古墳	白玉	滑石	抄88
2	小滝涼源寺遺跡	白浜字小滝涼源寺	SX-01	祭祀跡	前・中	白玉223 白玉未成品1 有孔円板5 剣形品6 管玉2 勾玉1	滑石 滑石 滑石 滑石 滑石 滑石	400
			SX-02	祭祀跡	前・中	白玉1 有孔円板5 剣形品4	滑石 滑石 滑石	
			SX-09	祭祀跡	中	勾玉1	滑石	
			SX-12	祭祀跡	前・中	管玉1 勾玉1 有孔円板1	滑石 滑石 滑石	
			SX-13	祭祀跡	前	有孔円板1 剣形品1	滑石 滑石	
			SX-16	祭祀跡	前・中	剣形品1	滑石	



### 3. 千葉県内玉作遺跡の概要

ここでは千葉県内玉出土遺跡の集成に基づき、縄文時代の攻玉、古墳時代の玉作、および石製模造品の生産が行われていたと考えられる遺跡について、その概要をまとめた。玉類の記載は集成表との重複をなるべく避けるようにし、遺跡の立地、周辺環境、調査歴、検出遺構、出土遺物等について簡単に記述した。以下に紹介する遺跡のなかには、発掘による検証を経ていなかったり、正式な報告書が未刊行である例も含まれ、今後追加されることは無論、訂正される部分もあると予想される。あくまでも現段階での遺跡認識の一端ということである。

#### (1) 縄文時代

##### 印旛郡印西町

###### 竹袋遺跡(天神台貝塚)

[文献30・406]

利根川に北面し、竹袋支谷と呼ばれる小谷の奥部左岸、標高約20mの台地上に所在し、谷との比高は10mを計る。1960年に「印旛・手賀沼干拓に伴う埋蔵文化財調査」の一環として調査され、縄文時代中期～晩期の土器を伴う7か所の地点貝塚が確認された。この折にヒスイ製の丸玉1点が表採された。その後小野良弘氏による踏査資料によって多量の丸玉半成品、未成品、原石、砥石が明らかになり、遺跡内において玉類の製作が行われていたことが確認された。さらに成品、未成品の石材にヒスイが認められることにより、硬玉の攻玉遺跡である可能性を高めている。発掘による検証は行われていないが、後～晩期に属すると考えられる。

また、小野氏表採資料には、古墳時代の石製模造品である、白玉、勾玉、剣形品、有孔円板も多数含まれており、石製模造品工房か祭祀跡の存在も予想される。

##### 八千代市

###### 神野貝塚

[文献406]

印旛沼の西端で新川に面した標高15m前後を計る台地上に位置する。縄文時代中期中葉から後期にかけての集落遺跡で、点在貝塚が存在する。発掘による調査は実施されていないが、小野良弘氏によって、垂飾、垂飾未成品、勾玉、丸玉、原石が表採されている。成品のほか未成品や原石も多く、本遺跡において玉類の製作が行われていた可能性は十分ある。採集されている土器から、縄文後期後半の攻玉遺跡と考えられる。

##### 佐倉市

###### 神楽場遺跡

[文献406]

印旛沼に注ぐ手繰川に開析された標高25m～28mの舌状台地上に立地する。同台地の南東部には、弥生時代後期から古墳時代前期を主体とする集落跡と、前方後方墳、方形周溝墓群が調査された飯合作遺跡が位置する。遺跡の範囲は台地全域に広がり、その時代も先土器時代から中・近世にわたる。

縄文時代は前・中・後・晩期の遺物を認め、一部遺構の調査が行われている。玉関係については、発掘による成果は得られていないものの、小野良弘氏によって、垂飾、垂飾未成品、丸玉、原石が表採されている。なかでも硬玉、滑石(蛇紋岩)を主にした原石、剥片の数の多さには目を見張るものがある。ヒスイも多く認められるところから、硬玉製玉類の生産も行われていたと推測される。時期の限定は困難であるが、採集土器から縄文時代後期から晩期の所産と考えられ、その時期の攻玉遺跡として位置づけることが可能である。

## 銚子市

## 粟島台遺跡

[文献15・216・404・418・440]

県の北東端、太平洋に突き出す銚子に所在する。犬吠埼からやや西側の広大な範囲に、縄文時代前期から後期初頭におよぶ遺跡が展開し、台地上、低湿地など地点を異にして存在する。1973年道路拡幅工事に伴い、寺村光晴氏を団長とする発掘調査が実施された。調査地点における標高は、8m～10mの低地で、68グリッド242㎡の発掘が行われている。この調査での特筆事項は、1959年・1960年の大場磐雄氏の発掘で注目されたコハクの存在が、再び確認されたことである。完成品や未成品の検出はなかったが、阿玉台式土器から加曽利E式土器と供伴して、原石や剥片が出土した。また、同じように平砥石や筋砥石等の攻玉工具が検出され、遺跡内でのコハクの玉類の生産がほぼ確実となった。

次いで1989年には1973年の調査地点の北西部の調査が、粟島台遺跡発掘調査会によって行われ、56点ものコハクおよびコハク玉未成品が出土した。このような調査に裏付けられるように、本遺跡は銚子に産するコハクの加工の中心的な遺跡である可能性が大きく、中期の攻玉遺跡としての性格も益々補強されてきている。しかし、これまでの調査では、明確な形で工房が検出されていないので、この点今後の調査に期待がかかっているといえよう。

## 余山貝塚

[文献266・319・441]

利根川流域に発達する沖積低地に立地し、標高は4m～7mを計る。周辺に所在する縄文時代の遺跡としては、芦崎橋遺跡、柴崎遺跡などを挙げるができる。本遺跡が学会に知られるようになったのは明治30年代にまでさかのぼる。以後戦前までは、いわゆる珍品や人骨の発見を目的とした発掘が繰り返され、貝層部は大きな破壊を被ってしまった。戦後になると計画的な発掘が数度実施され今日に至り、多くの情報が蓄積された。そのなかで1988年に行われた調査は新たな重要な知見を加えた。この調査は貝層部から50m離れた高田川に沿った傾斜地であったにもかかわらず、後期中葉から弥生時代初頭までの土器の発見があり、さらに多量の石器とともに玉類等も出土し注目された。

玉類は包含層中から21点出土している。数量的にはわずかであるものの、原石、未成品、成品が認められ、成品の形態には丸さがあり厚いつくりを呈するもの、周辺が角張っているもの、管玉状が存在する。これらの穿孔方向には両側と片側の二種があり、石材にヒスイをもつ。また使用対象が特定できない砥石類が多量に出土している。包含層からの検出であるため明確な時期比定は無理としても、状況から判断して、後期後半以降に生産されたものと考えられる。より具体的な遺構と遺物類による検証を待つが、ヒスイを含む攻玉遺跡の一つになるであろう。

## 市原市

## 武士遺跡

[県年89]

遺跡は養老川東岸の標高75m～78mの南北にのびるほぼ平坦な台地上に位置し、その東側と西側は村田川によって開析された谷が入り込んでいる。南側は急斜面が形成され、養老川に開析された低地へと続いている。周辺には、縄文時代後期の集落遺跡である勝間遺跡や、縄文時代後期と弥生時代後期の住居跡を検出した武士遺跡、埴輪が墳丘に二段に巡る全長約60mの人見塚古墳や、国分寺に先行し建立されたと考えられている武士廃寺の推定地などが知られている。調査は、千葉県水道局による浄水場建設に先行して1987年4月から1990年3月まで実施され、48,000㎡の面積について調査が行われた。調査対象地全面にわたって縄文時代早期から晩期に至るまでの遺物が検出されている。また弥生時代中期の再葬墓・堅穴住居・方形周溝墓が検出されている。歴史時代以降では方形周溝状遺構・火葬墓が検出されている。中でも縄文時代の遺構・遺物は、中期末から後期にかけてのものが主体を占め、堅穴住居・土坑・埋甕等が検出されている。

## II 基礎資料

縄文時代晩期後葉の包含層は約15mの範囲に集中して出土し、氷I式併行の時期と考えられ、これらの土器群に伴って滑石製白玉類の成品・未成品が出土している。遺構に伴うような集中の仕方はみられないが、滑石製玉類の工場の存在がうかがわれるとしている。原材にヒスイは認められず、使用石材の産地が県内に求められる可能性もある。

### 夷隅郡大多喜町

#### 堀之内上の台遺跡

[文献174]

清澄山系の植野あたりから流れ出し、蛇行を繰り返しながら太平洋へそそぐ夷隅川の中流域、三方をその川に囲まれる標高51m～54mの舌状台地上に所在する。遺跡は縄文時代を中心に、中世の城館址とも考えられているが、現在後者の名残りはほとんど見当たらない。周辺には夷隅川と密着した遺跡が数多く立地している。1978年、遺跡の中央部に豚舎が建設されることになり、夷隅郡教育委員会によって1,056㎡の発掘調査が行われた。発見された遺構は、縄文時代後期末から晩期に属する竪穴住居2軒、土壇墓5基、水場遺構3か所、溝状遺構1条、それに遺物包含層である。遺物は、土器では安行1・2・3a・3b・3c式、姥山Ⅱ・Ⅲ式、前浦式、大洞C1・C2、A式などがあり、石鏃、スクレイパー、磨製・打製石斧、礫器等の石器類、石剣、石棒の石製品と玉類が検出された。

玉類は、棗玉様の完成品1点、同未成品2点、白玉の完成品1点、欠損品4点、半成品5点と剥片、原石が認められる。完成品の作りは精巧で、棗玉様、白玉の両成品は両側からの穿孔であることが観察される。白玉2点が竪穴住居の覆土中から出土した以外は包含層、あるいは表面採集によるが、時期的には安行3b式から前浦式に伴っていたものと考えられている。これら玉類の石材には滑石が用いられており、蛇紋岩を産する嶺岡山系を控えている立地条件から、原材を入手し遺跡内で成品に加工していたことも考えられている。使用されている石材が油脂光沢をもち、硬さが爪の先でも傷をつけられる程度であることから滑石と考えられ、嶺岡山系に産する蛇紋岩の性質と必ずしも一致しないので、石材の産地についてはなお慎重を要する段階である。いずれにせよ縄文時代後晩期の攻玉遺跡の一つとみなすことのできる遺跡であり、工場の検出の可能性も高く、石材の産地同定とともにそれも待たれるところであろう。

### 勝浦市

#### 長者ヶ台遺跡

[文献108・125]

房総半島の南東部、太平洋に面する標高110mの丘陵頂部に、約300m×300mの範囲をもって所在する。1969年以来立教大学考古学研究会によって実施されている、夷隅川上流の遺跡分布調査の報告により明らかになった。また、周辺の丘陵斜面や舌状台地上には、縄文時代前・中期の遺跡が確認されている。

遺跡の調査は1973年・1974年と1990年に実施されている。玉類は花積下層期、黒浜期の竪穴住居からの出土がある。そのなかには完成品1点のほか未成品、砥石が含まれているものの、数量的には僅かであり、いずれも工場に比定する材料には乏しい。資料的に充実しているのは、遺跡の発見者である吉野忠衛氏の集められた塊状耳飾と数種の不定形の玉類である。特に塊状耳飾については、剥片をはじめ、平らな円盤状に加工した段階、それに穴をあけたもの、完成品がそろっており、製作工程を復元し得る資料として注目される。他の玉類も含め、その石材の多くが油脂光沢をもった滑石で、蛇紋岩が近くの嶺岡山系で産することから、石材の搬入と加工が考えられている。石材の産地を明かにすることは今後の課題であるが、この地において有孔飾玉類が生産されていたことは疑いないだろう。時期的には前期に比定できるので、県内の数少ない攻玉遺跡のなかでは最も古く位置づけられる。

## (2) 古墳時代

## 野田市

## 尾崎梨ノ木遺跡

[文献301]

県の北西部で、五駄沼と江戸川とはさまれた、標高13m～15mの細長い台地上に立地する。1983年に小学校の建設に伴い、野田市教育委員会が27,000㎡の発掘調査を行った。

検出した遺構は、古墳時代中期から後期の竪穴住居5軒、平安時代の竪穴住居2軒などである。古墳時代に属する5軒の竪穴住居のうち3軒から、石製模造品の未成品、剥片が出土し、石製模造品工房の可能性もたれる。特に第2号住居址からは、白玉の未成品を主に、有孔円板、勾玉とみられる未成品が伴い、また砥石も出土している。遺構の平面形はいずれも正方形に近く、対角線上の4か所に柱穴を配し、コーナー部に貯蔵穴を設けている。

## 松戸市

## 殿平賀向山遺跡

[文献331]

県の北西部で、古利根川に開口する中金支谷と横須賀支谷によって形成された、先端のふくらむ舌状の台地に立地し、標高は16m～20mを計る。同一台地の西端には古墳時代後期の竪穴住居が検出された、馬屋敷遺跡、大谷口遺跡が位置する。

1986年に住宅の建設に伴い、1,300㎡の発掘調査が行われ、縄文時代の竪穴住居5軒、古墳時代の竪穴住居3軒などを検出した。古墳時代の竪穴住居のうちの2軒に石製模造品が伴い、中期に比定される7号住居址からは、滑石製勾玉の未成品が出土した。他に剥片や工具が認められないため、この竪穴住居が石製模造品の工房であったとは断定できないものの、付近に工房が存在する可能性は指摘できよう。

## 印旛郡栄町

## 酒直遺跡第3地点

[文献306]

利根川と印旛沼の間に半島状に突き出た、標高30mの台地上に所在する。この台地は、利根川から浸入するいくつもの谷によって複雑に刻まれており、竜角寺はじめ殖生郡衙推定地である大畑遺跡、竜角寺古墳群などの重要な遺跡をのせている。また本遺跡の北側には唐三彩の陶枕を出土した向台遺跡が接し、浅い谷をはさんで大畑I遺跡があり、南東へ約1.2kmの地点には前原I遺跡が立地する。

調査は宅地造成に伴い、1980年から1982年にかけて同遺跡調査会によって実施された。発掘地点は3地点に分かれ、第1地点は古墳を主とし、同一遺跡と考えられる第2・3地点からは、古墳時代中期から奈良時代にかけての176軒の竪穴住居の検出をみた。中心となる時期は古墳時代後期である。

第3地点のほぼ中央に位置する043号住居址の1軒が石製模造品工房に比定される。住居の平面形は6.20m×6.45mの正方形に近く、中央部から北側に寄せて炉を設置している。柱穴は対角線上に4か所配され、北東の柱穴の周辺と、それと対向する南西の柱穴の周辺から、滑石製の白玉の未成品と滑石の剥片・細片が多量に出土した。しかし工具類の出土は認められず、土器の量も少ない。また本工房の特徴として、完成品が1点も含まれていないことが挙げられる。

## 前原I遺跡

[文献280]

印旛沼北東端で沼に面し、標高約32mの樹枝状に複雑に開析された台地上に位置する。南側隣接地にはみそ岩屋古墳が存在する。県道成田安食線建設に伴い、1980年に調査が実施され、古墳時代の住居6軒と土坑2基、方墳1基が検出された。竪穴住居のうち2軒が石製模造品工房である。まず1軒は、一部が未調査であったが、一辺6.2mの隅丸方形を呈する。遺物は有孔円板、剣形品、白玉未成品、

## II 基礎資料

研磨した石片、チップが多数検出され、土器は埴1点だけが出土した。もう一軒は全掘され、一辺5.9mの隅丸方形を呈する。柱穴は5か所に検出されたところがあるが、南東隅のものは、形態と位置から考えて工作用のピットの可能性もたれる。炉はない。遺物は滑石製の白玉未成品、研磨した石片、多数の石片、原石が検出されている。土器は、埴、鉢、甕が出土している。2軒の工房共に、出土土器から、古墳時代中期に比定される。

龍角寺ニュータウン遺跡群No. 4 地点 [文献208]

北は利根川、南は印旛沼に挟まれ、根木名川流域の奥部に存在し樹枝状に開析された、標高約25mの台地上に立地する。龍角寺ニュータウンの造成事業に先立って1979年から1980年にわたって6地点の調査が実施され、縄文時代から奈良・平安時代にかけての集落・墳墓跡などが検出された。

6地点のうち最大の面積を有するNo. 4地点から、石製模造品工房が1軒検出されている。遺構は、4.8m×5.0mの隅丸方形を呈し、炉が1基、工作用とみられるピットが東側コーナーに位置している。南東側の東コーナー寄りの床面は、約1.0m×1.1mの方形の範囲のわずかな高まりが認められた。出土遺物は、滑石製模造品として白玉、多数の石屑のほかに紡錘車2の出土が認められる。土器類では埴、小型鉢、高杯が出土しており、それらからこの工房の時期が古墳時代中期に位置づけられる。本遺跡中ほかに同時期とみられる堅穴住居はなく、孤立した観の強い立地を示している。

龍角寺遺跡 [文献296]

印旛沼に南面する台地上で標高約30mを計る。表採品であるが、碧玉質の原石とみられる石が採集されており周辺に古墳時代の玉作遺跡の存在が想定されているが詳細は不明である。

## 成田市

磯部遺跡 [文献296]

利根川に北面する台地上に位置し、標高約20mを計る。1980年10月から11月にかけて調査が実施された。未報告のため詳細は不明であるが、古墳時代後期の工房が検出されたようである。

水掛遺跡 [文献296]

利根川から南に少し入り込んだ沖積低地の微高地上に位置し、標高3m～5mを計る。表採品ではあるが、古墳時代の剣形模造品の成品・未成品3点が採集され石製模造品製作遺跡とされているが、祭祀遺跡の可能性もありうると併記されている。

石塚遺跡（公津原Loc. 20） [文献196]

根木名川から入る2つの支谷に挟まれた標高33mの細尾根状の台地の基部にある。成田ニュータウン関係で1970年～1971年に調査された。古墳時代から奈良・平安時代の堅穴住居のほか古墳・掘立柱建物跡、鍛冶跡、また寺院と関係すると考えられる銅跡を検出した。

このなかで石製模造品工房は9軒で古墳時代中期に属する。出土遺物は白玉未成品が主体であるが、勾玉や剣形品の未成品も含んでいる。焼失により廃絶したものが多い。近くに玉作工房が発見された八代遺跡や外小代遺跡があり、これらと本遺跡との関連が注目される。また周辺の公津原古墳群には石枕や白玉を出土する古墳を含む。

八代遺跡（公津原Loc. 39） [文献94・196]

印旛沼東岸の標高30m程の台地上に立地し、現在一部が県指定史跡になっている。周辺の台地上には前方後円墳・前方後方墳を主墳とする総計100基以上の公津原古墳群（八代台古墳群・天王塚古墳群・瓢塚古墳群）が連なっている。また北方500mに外小代遺跡、北西2kmには大竹遺跡といった玉作遺跡がある。

1963年・1964年に八代花内遺跡の名称で調査され、東国における初めての玉作遺跡の調査として注

### 3. 千葉県内玉作遺跡の概要

目された。この調査で6軒の竪穴住居を検出し、玉作工房と判断されたのは第1・3・6号址の3軒で、いずれも焼失住居である。原石、管玉・勾玉・平玉等の各種未成品や剥片等を多数出土したほか、砥石・鉄器等の工具類を出土した。また第3号址検出の工作用ピットは大和田稲荷峰遺跡の第1号址検出の工作用ピットと同じ形式で攻玉技術も類似している。

その後、成田ニュータウンの造成に伴い1971年にも調査され、古墳時代前期の玉作工房7軒を検出した。やはり緑色凝灰岩の管玉未成品を多数出土した他、滑石製の管玉未成品等も出土している。

外小代遺跡（公津原Loc. 40）

[文献196]

小橋川に開析された支谷に面した舌状台地に立地し、集落と古墳を検出した。南西200mに八代台古墳群、同500mに八代遺跡がある。

成田ニュータウン関係で1971年調査された。弥生～古墳（前）・奈良・平安の集落で、竪穴住居84軒、玉作工房8軒、掘立柱建物跡、古墳3基を検出した。玉作工房は古墳時代前期のもので同時期の竪穴住居は22軒検出している。緑色凝灰岩による管玉の製作を主体としているが、大型管玉状石製品や勾玉の未成品、石製腕飾類の刳貫円板片等も出土している。この他に原石・砥石を出土した。

大竹遺跡

[文献101・131・152・183]

印旛沼に面する標高32mの台地上に位置する。1972年市の教育委員会が実施した市内埋蔵文化財分布調査で発見され、1974年に学術調査された。遺跡の南東に八代遺跡、外小代遺跡が所在し、遺跡周辺には大竹古墳群・上福田古墳群・龍角寺古墳群がある。

確認した遺構は12遺構で、このうち完掘したのは第1号址と第9号址の2軒である。第1号址は古墳時代前期に属する玉作・石製模造品工房で、2段に掘り込まれた工作用ピットを持ち、緑色凝灰岩を用いた管玉や管玉未成品のほか、白玉・橐玉状品・白玉未成品と、数千にのぼる剥片・石屑、及び原石2個等を出土した。また大型管玉状石製品（未穿孔）、出雲形砥石を出土したことは特筆される。また八代・大和田遺跡でみられない敲打施溝技法が確認された。このほか第2号址、第4号址も玉作・石製模造品工房であろうと推定される。八代遺跡とはほぼ同じ時期の玉作遺跡と考えられる。

#### 市川市

杉ノ木台遺跡

[文献181]

県の西部、市川市東部の大柏谷に張り出す、通称柏井台から一段下った千葉第1段丘上に位置し、標高は11m～12mを計る。1974年、梨畑の施肥作業中に弥生時代終末期の広口壺が発見され、以後市立市川博物館によって継続的な調査が行われている。

発掘によって検出された遺構の時期は、縄文時代と弥生時代が主となる。古墳時代中期のH-1号住居址は台地の西側に位置し、1978年までの調査で、この1軒のみが古墳時代の所産に比定される。遺構の平面形は隅丸長方形を呈し、4.8m×3.4mの規模を有する。南東コーナー部に貯蔵穴をもつが柱穴はない。出土遺物は土師器の甕、高杯、埴、椀の土器類の他に、土玉7点、滑石を原材料とする有孔円板1点、白玉1点、若干の石片、それに軽石がある。報告では滑石の石片や、工具と考えられる軽石の出土から、石製模造品工房の可能性が高いとされている。

#### 船橋市

夏見台遺跡

[文献49・132・133]

海老川支流に東西を挟まれた台地上に立地する古墳後期から奈良・平安の集落である。3次にわたって調査が行われた。

1次調査では21軒の竪穴住居を検出し、このうち古墳時代後期の住居は15軒であった。この中で古

## II 基礎資料

い時期に属する4号址が石製模造品工房と推定される。炉は中央にあり、柱穴は遺構内のほか壁外にも検出した。遺物は白玉未成品や原石、多数の剥片等である。このほかにも白玉・管玉・有孔円板・紡錘車を出土する竪穴住居があり、このなかで白玉・管玉・砥石を出土した15号址については断定はしていないものの他の住居と違う性格をもつ可能性を指摘している。2次調査では、古墳時代後期の竪穴住居を13軒検出した。このうち7号址が石製模造品工房で、炉が存在する、南壁隅にピットが存在する、壁外にピットが存在する点などが第1次の4号址と共通する。

また3次調査で検出した第2・5・6号住居址からは未成品、原石を出土しておりやはり石製模造品工房である。

### 八栄北遺跡

[文献99]

海老川に挟まれた台地上に立地し、夏見台遺跡の北縁にあたる。1972年に調査された。古墳時代後期の竪穴住居のうち最大規模の3号址が石製模造品工房に比定される。焼失住居で、土師器のほか滑石の原石、白玉未成品多量の滑石屑、敲石様石器、砥石、軽石等を出土した。規模、出土遺物の種類と量以外は他の竪穴住居と大きな差異は認められない。

### 柏上遺跡

[文献81・185]

印旛沼に注ぐ神崎川の水源近くの八木ヶ谷とその支谷の分岐する南側の台地上に位置する。1971年と1973年の2次にわたり調査が行われた。

竪穴住居を4軒検出し、いずれも古墳時代中期に属する。このうち第1号住居址と第4号住居址から有孔円板、剣形品を出土したが全て成品で未成品は含まない。また第1号住居址と第3号住居址から砥石を1点ずつ出土した。

### 白井先遺跡

[文献98]

印旛沼に流入する主要な河川神崎川の右岸台地上に立地する古墳時代中期から後期の集落である。千葉ニュータウン関係で1970年に調査が行われた。

白井先D地点を中心に石製模造品を伴う竪穴住居が検出された。古墳時代中期では11軒中9軒から、古墳時代後期では12軒中7軒から出土している。後期の竪穴住居に白玉を出土する例が1軒しかないのが特徴である。報告では石製模造品の製作については未成品の量が多くないことなどからその可能性は薄いとされている。また製作していたとしても、製作していた竪穴住居と完成品を保有していた竪穴住居の差は認められず、専門の石製模造品工房ではなく自家用製作の可能性を指摘している。

### 外原遺跡

[文献82]

東京湾に面した標高23mの舌状台地上に位置する古墳・平安時代の集落である。1970年に調査された。古墳時代中期に属する竪穴住居は10軒検出し、白玉・勾玉・剣形品・紡錘車・有孔円板等を出土した。このなかで3号址は成品・未成品等のほか原材・素材・砥石・軽石等を出土し、石製模造品工房であると推定される。構造は他の竪穴住居と大きな差がないが、最も規模が大きく鉄器の出土量も多い竪穴住居である。このほか第1・8・10号址でも滑石製品や製作工具、原材、素材が出土した。この時期の集落としては鉄器が豊富で羽口や小鉄挺を出土した竪穴住居（11号址）もある。

## 印旛郡白井町

### 中西山遺跡

[文献31]

印旛沼東端の支谷に開析された標高約18mの舌状台地上に位置し、調査は1960年8月に実施された。竪穴住居が2軒調査され、1軒は約4.8m×4.8mの方形を呈し、柱穴4か所、炉1基、貯蔵穴か工作用と考えられるピット3基が検出された。住居には焼土、炭化材がみられ焼失住居と思われる。遺物は、焼土の中から滑石製の白玉が1点と壺が1点出土している。もう1軒については、完掘されてい

### 3. 千葉県内玉作遺跡の概要

ないが、約4.7m×4.7mの方形になるものとみられ、柱穴は確認されなかったが、貯蔵穴もしくは工作用ピットとみられる径82cm、深さ65cmのピットが検出されている。炉は、1基検出され、床面に焼土が散布していたことから焼失住居と考えてよからう。出土遺物は、滑石製の紡錘車、剣形品、石製模造品の破片が床面中央から、壁際に砥石、ピットの端から石製模造品の破片が出土している。土器は、甕5、椀1、土玉2が検出されている。石製模造品類は、滑石製の紡錘車1、白玉1、剣形品1、緑泥片岩製の鏃形石製品1、有孔円板の破片1が検出されている。2軒の竪穴住居共に古墳時代中期のものともみられる。

神々廻宮前遺跡B地点

[文献360]

神崎川によって開析された、標高20mの台地上に所在する。1986年にゴルフ場の造成に伴い発掘調査が行われた。

14,500㎡の面積を調査し、竪穴住居17軒、方形周溝墓5基、土坑3基が検出された。その調査区の最も南側に位置する、013A・B住居跡から石製模造品が出土した。013住居跡はB→Aと新旧関係を有するが、Bを廃棄してAへと拡張したと理解される住居である。A住居跡の出土遺物は、土師器の杯・甕の土器のほか、石製紡錘車、滑石製有孔円板欠損品2点、滑石製剣形品1点、滑石の原石・剥片各1と鉄鏃、鉄鎌がある。またB住居跡からは、須恵器高杯、土師器の杯と、滑石製有孔円板2点、滑石剥片3点が出土している。

報告書においては、B住居跡出土の須恵器を根拠に、時期的には5世紀後半代の年代が与えられているが、原石・剥片の数の少なさから、石製模造品工房と断定することは避けている。しかし、原石や剥片の存在から、この住居において加工していたことは十分考えられるため、石製模造品の工房の可能性は高いといえよう。

復山谷遺跡

[文献210]

神崎川とその支谷に開析された標高20m～21mの広大な台地に所在する。神崎川から南に入る谷に面して白井第一遺跡が立地し、また神崎川を東に向かうと白井先遺跡群、神々廻宮前遺跡がある。

本遺跡は千葉ニュータウン計画区域内にあり、当文化財センターが数次にわたって発掘調査を担当し多くの成果を得てきており、なかでもローム層中の石器群は注目を集めている。1978年から1980年に行われた第4・5次調査では、弥生～古墳時代の竪穴住居40軒が検出され、古墳時代後期の一軒から多量の石製模造品が出土した。

5次調査の調査区中央に位置する120号住居址は、4.3m×4.5mの規模から4.6m×5.3mの長方形のプランに拡張している焼失住居である。炉を住居中央から東に寄せて設置し、北西のコーナーに浅い貯蔵穴を設けている。カマドは存在しない。玉類は大きく2か所に分かれて出土し、貯蔵穴のある北西コーナー寄りの位置からは、白玉、有孔円板等150点、南東コーナーの集中地点には滑石の破片300点を確認された。さらに勾玉、滑石の原石、砥石、軽石、鉄器が出土している。また、甕・杯・椀・高杯の土器類が35個体以上豊富に出土している。報告書で述べられているように、石製模造品工房と判断される。

八千代市

権現後遺跡

[文献249]

印旛沼から注ぎ出る新川の支谷に面した台地上にある先土器～縄文・弥生～古墳～奈良・平安の集落である。1977年～1981年に4次にわたり調査が実施された。

古墳時代の竪穴住居は前期から後期にわたっている。中期に属するのは5軒で、このうち4軒が石製模造品工房である。剣形品・有孔円板・白玉・勾玉を出土したが、白玉とその未成品がほかの製品



## II 基礎資料

を凌駕している。後期の竪穴住居は10軒検出し、剣形品・紡錘車を出土するものもある。4軒の石製模造品の出土状態にはやや差がみられるが技術的な差は認められない。この他、石製模造品工房であるD035遺構から銅鏃を出土している点が注目される。

### 北海道遺跡

[文献285]

印旛沼から流れ出る新川の西側の洪積台地上に位置している。台地は複雑に開析され樹枝状に谷が入り込み、遺跡は標高10mから20mを計る舌状台地西半部に所在している。住宅・都市整備公団による区画整理事業に伴い調査した遺跡の一つで、谷を挟んだ北側の台地上には権現後遺跡が立地する。

本遺跡は1978年から1980年にわたって調査が実施され、旧石器時代・古墳時代・歴史時代の遺構が調査された。そのなかで、古墳時代中期の竪穴住居は22軒検出され、石製模造品工房が12軒を占める。その他に模造品を出土した竪穴住居が4軒確認され、白玉・勾玉等が出土している。これら22軒のうち13軒（石製模造品工房10軒）が一群にまとまり、それ以外は1～2軒の群で存在する。また、後期の工房1軒が検出されている。

### 川崎山遺跡

[文献186]

印旛沼西南部、新川の本谷と支谷に区画された台地上にある弥生～古墳時代の集落跡で、1979年に調査された。

古墳時代の竪穴住居は3軒検出され、いずれも中期に属する。このうち5号址から滑石製白玉や有孔円板、剣形品などとその未成品、滑石剥片、勾玉、棗玉を出土した。しかし、工具・砥石や砥糞等を出土しないため報告では石製模造品工房とはしていない。また6号址でも剥片を出土したが、成品・未成品・工具・砥石・軽石や砥糞等を出土しないため、やはり石製模造品工房とはしていない。周辺での石製模造品工房の存在を想定し、ここからの流れ込みとみている。

### 小板橋遺跡

[抄80]

新川西岸の標高24m～25mの台地上に位置する。600m北には川崎山遺跡が立地し、さらにその北には萱田遺跡群が所在する。

1980年、宅地造成に伴い発掘調査が行われ、古墳時代中期の竪穴住居7軒、後期の竪穴住居6軒等が検出された。出土遺物に石製模造品や未成品が含まれており、石製模造品工房の存在が確認されている。

## 印旛郡印旛村

### 古山遺跡

[文献307]

印旛沼の西北岸へ流れ込む師戸川によって開析された、標高26m～27mの台地上に所在する。1985年に村道の改良工事に伴い、遺跡の中央部の約4,200㎡が発掘調査され、縄文時代の遺物包含層、弥生時代の竪穴住居2軒、古墳時代の竪穴住居1軒、歴史時代の竪穴住居1軒などが明らかになった。

唯一の古墳時代中期に属する022住居址は、台地の西端部に位置する焼失住居である。ここからは、白玉の成品をはじめ、未成品、滑石の剥片、原石が床面および貼床中から出土し、また、住居周辺から剣形品、垂飾品、滑石原石が採集された。出土点数の詳細は不明であるが、石製模造品工房と判断される。

### 一ノ台遺跡

[文献308]

印旛沼の曲折部へ突き出る標高24.5m～26mの台地上に所在する。この半島状の台地に展開する仲ノ台遺跡、駒込遺跡、油作第1・2遺跡などの遺跡は、広く平賀遺跡群としてとらえられ、本遺跡はその中で最も南側の印旛沼寄りに位置する。1981年、宅地造成に伴い50,000㎡の発掘が行われた。調査では旧石器時代の資料をはじめ、弥生から古墳時代後期にかけての竪穴住居41軒を検出した。

### 3. 千葉県内玉作遺跡の概要

古墳時代の竪穴住居は31軒で、23軒が中期に比定される。玉類を出土している住居は8軒あり、報告では白玉未成品、剣形品未成品、剥片、残核、砥石片を出土した第20号住居址の1軒を、石製模造品工房と断定している。しかし報告中にふれられているように、白玉未成品、勾玉・棗玉、剥片が出土した第32号住居址も工房の可能性が高く、また、第25号住居址も同様に工房と考えられる。

#### 佐倉市

##### 白井田小笹台遺跡

[文献411・435]

印旛沼の南湖岸に張り出す標高27m～28mの台地上に所在する。1989年に住宅建設に伴って発掘調査が実施され、古墳の周溝、弥生・古墳時代の竪穴住居、溝、土坑、柵列などが検出された。古墳時代中期のうち3軒が石製模造品工房と考えられ、特に第4号住居址は、約半分が調査されたにすぎないが、剣形未成品、有孔円板、同未成品、滑石の剥片、チップ、砥石が出土した。

この工房は主軸を北西にとり、検出した壁の規模は6.32mを計る。炉はやや北寄りに設けられ、床面は固くしまる。焼失住居である。

##### 岩富漆谷津遺跡

[文献232]

鹿島川の支流弥富川の右岸台地上に立地する縄文～奈良・平安の集落。1980年から1981年に調査された。古墳中・後期～奈良・平安の竪穴住居81軒、土坑9遺構から多数の石製模造品・玉類・土製模造品を出土した。この中で石製模造品の未成品や原石・石屑等を含むのは古墳時代中期の7軒と古墳時代後期の9軒であるが、古墳時代中期の043号住居址を除くと量が少なく、石製模造品工房かどうかについては検討を要する。

##### 畔田川崎東遺跡

[文献103]

印旛沼の南端に開析する手繰川谷の分岐点より奥の台地上にある。畑地の表採資料で、古墳時代中期の土師器とともに石製模造品（有孔円板・剣形品・勾玉・未成品）が発見され、未成品を含むことから石製模造品工房の存在が予想される。

#### 四街道市

##### 西向井遺跡

[文献211]

印旛沼に流入する鹿島川の主谷に鹿渡支谷が合流する地点の南岸で北へ張り出した台地上に位置し、標高20m～26mを計る。1979年に東京電力の北総線送電線建設事業に伴って調査が実施され、弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居5軒と石製模造品工房2軒、溝などが検出された。この工房の1軒は5.4m～6.2mのゆがんだ方形を呈し、柱穴が4か所に配される。炉は1基あり、ピット2基が壁際に存在する。遺物は多数の成品・未成品・原石・碎片が出土しており、それらの多くは南東側壁の付近の床面上に分布している。伴出土器は杯、鉢、甕があげられ、それらからみてこの工房の時期は古墳時代中期に該当するものとみられる。もう1軒の工房は、他の住居の床面を切って重複したかたちで検出され、一辺4.3mの隅丸方形を呈するものとみられる。柱穴2と炉が1基検出され、遺物は炉を中心として、6か所にわたり集中して床面上から出土した。

#### 印旛郡八街町

##### 滝台遺跡

[文献296]

北総台地上、太平洋と東京湾との分水嶺周辺で、標高約60mの太平洋岸に注ぐ地域に属している。表採品であるが、滑石製の白玉・剥片が採集されており、古墳時代の石製模造品製作遺跡とされている。詳細は不明である。なお、本遺跡からは「山邊郡印」が出土しており広く知られている。

## II 基礎資料

### 佐原市

#### 堀之内遺跡

[文献212]

大須賀川を東に臨む標高33mの台地上に位置する。1974年に調査され、古墳5基と古墳時代から平安時代の竪穴住居25軒を検出した。古墳時代後期に属する19軒のうち3軒（第1・17・21住居址）から滑石の原石や石製模造品及びその未成品を出土した。他の竪穴住居に破壊されるなどして遺存状態が良くないため関係遺物の量は多くないが、石製模造品工房であると考えられる。5基の古墳のうち1号墳と3号墳からは石枕、立花、白玉等の滑石製品を出土しており、工房との関係が注目される。また南東1km程の同じ台地上に白玉、刀子・鎌・斧等の石製模造品を出土した鶴崎天神台古墳がある。

#### 玉造上ノ台遺跡

[文献363]

利根川に北面した標高約30mの台地上に位置する。佐原市教育委員会が1982年から1985年に調査を行った。古墳時代から奈良・平安時代の集落で、古墳時代後期の石製模造品工房が検出された。未報告のため詳細は不明であるが、生産遺跡から立花を出土したということで注目された。

#### 古屋敷遺跡

[抄81]

利根川に面した舌状台地上に立地する。玉造上の台遺跡（石製模造品製作遺跡）は同じ台地の南西にある。1981年に調査された。古墳時代後期の竪穴住居は47軒検出し、このうち4軒が石製模造品製作の工房であった。未報告のため詳細は不明である。

#### 岩ヶ崎（野中台）遺跡

[文献64]

利根川に面した標高約10mの台地縁辺部に位置する。1971年に丸子 亘氏によって調査が実施され、十数軒の竪穴住居を検出した。そのうちの数軒からは多数の石製模造品、未成品、原石、剝片・屑片等を出土し、石製模造品の製作を行っていたことを示している。また、工作用ビットも良好なものが検出されており、注目すべき遺跡として紹介した。

### 香取郡下総町

#### 木挽崎遺跡

[文献414]

下総台地の北部、利根川の沖積水田に張り出した標高10m～20mの台地上に所在する。山砂採集により遺跡の大部分がすでに湮滅し、わずかに東側の一部を残すにすぎない。1975年に木挽崎古墳群を調査した際に、古墳時代中期に属する石製模造品工房1軒を確認し、滑石剝片・屑片多数を出土した。

#### 若庄司遺跡

[文献94・414]

下総台地の北部、利根川に面する標高20m～30mの台地上に所在する。山砂採集、団地造成のために削られ、台地北側はすでに煙滅している。大和田玉作遺跡群の東にあり、また木挽崎遺跡とは谷を挟んで向かい合っている。また1970年に発掘調査された大日山古墳（前方後円墳）が西に接している。開発時に散乱していた遺物が内藤武義氏により発見され、管玉未成品、有孔円板未成品、剣形品未成品、白玉未成品が採集された。今日にいたるまで発掘調査は実施されていないので、明確な時期や遺構の存否について知ることができないが、状況から考えて石製模造品工房が存在する可能性が大きい。

#### 治部台遺跡

[文献53・65・94・414]

大和田玉作遺跡群の中の一つで、西に稲荷峰遺跡、東に大日台遺跡等が続く。稲荷峰遺跡と同様、古くから玉作と石製模造品製作に関連する遺物が多く採集されていた。1969年12月和洋女子大学考古学研究会と下総郷土史研究会により予備調査が実施され、翌1970年3月に千葉県教育委員会を主体として、大和田玉作遺跡調査団が組織され発掘調査が実施された。その結果4軒の竪穴住居を検出し、第1号址が玉作・石製模造品工房であった。遺構の遺存状態は必ずしも良好とはいえなかったが、碧玉・滑石質の管玉成品・未成品、有孔円板、剝片等が出土した。古墳時代中期に属すると思われる。

## 大和田坂ノ上遺跡

[文献364・414]

利根川に面する台地最先端に立地している。大和田玉作遺跡群の西端にあたり、旧称稲荷峰北（A地区）遺跡の一部である。山砂採取と校舎拡張にともない、1982年に発掘調査され、弥生時代から古墳時代の竪穴住居4軒と前方後円墳1基を検出した。このうち古墳時代中期の竪穴住居（住居址No1）から剣形品・有孔円板・白玉等の成品及び未成品のほか石片や原石片を出土した。古墳の周溝によって一部が攪乱され、遺構の遺存状態は良好とはいえない。また工作用ピット等も検出されなかったが石製模造品工房であったことは間違いのないと思われる。棒状の鉄製品が1点出土しており、工具である可能性もある。

## 稲荷峰遺跡

[文献65・77・94・414]

大和田玉作遺跡群と総称されている遺跡の一部である。北総台地の先端部に位置し、利根川の沖積低地に接している。周辺には古墳群も存在する。旧称稲荷峰南（B地区）遺跡で、旧称稲荷峰北（A地区）遺跡が大和田坂ノ上遺跡である。また東約200mには治部台遺跡、そこからさらに200m程東に大日台遺跡、さらに南東300mには仲道遺跡、その東には小山遺跡等が存在する。本遺跡からは古くから玉作関連資料が採集され、玉作工房の存在の可能性が指摘されていた。発掘調査は、1970年8月から9月にかけて千葉県教育委員会が主体となり、大和田玉作遺跡発掘調査団が実施した。この結果、約100㎡程の調査区内から竪穴住居7軒が検出され、古墳時代に属する4軒から玉作関係の遺物を出土した。このうち1号址と4号址の2軒で、玉作と石製模造品製作を行っていたと考えられる。1号址は焼失住居で古墳時代前期に属する。碧玉質・滑石質の管玉の成品・未成品のほか有孔円板、白玉未成品を検出し、2基の工作用ピットも検出した。4号址は時期が明確ではないが、碧玉質・滑石質の管玉の成品・未成品のほか有孔円板未成品、白玉未成品等を検出した。1号址に比べ碧玉質材の量が4分の1にすぎず、滑石製品の製作が主体であったようである。工作用ピットも検出されなかった。工作用ピットの有無や石材の相違等が時期差と共に考慮される。

## 房台（八幡神社）遺跡

[文献414]

稲荷峰遺跡や治部台遺跡の南東、利根川から入り込む支谷に面した台地上に立地する。碧玉・滑石の管玉、管玉未成品、剥片が採集され、玉作工房が存在した可能性が高い。既に削平されている。

## 仲道（八幡神社裏）遺跡

[文献414]

利根川に合流する境川に面した台地上に所在する。1984年に行われた生産遺跡基礎資料作成調査の踏査の際に、有孔円板・剣形品・刀子形模造品・白玉・滑石剥片等が採集された。明確な時期は不明であるが、石製模造品製作遺跡の可能性が大きいと指摘されている。

## 小山（宮作・小山岱）遺跡

[文献414]

房台遺跡の東、利根川の沖積水田から入り込む谷に面した標高35m前後の台地上に所在する。滑石製管玉・剥片のほか有孔円板・剣形品・白玉等の成品・未成品が採集され、石製模造品製作遺跡であるとみられている。表採であるため明確な時期については不明である。

## 高岡遺跡

[文献145・414]

大和田玉作遺跡群の西方、利根川の沖積地の中にある標高約5mの微高地にある。発掘調査は、1976年3月から4月にかけて実施され、テラス状遺構と溝、ピット、遺物集中地点が検出された。遺物集中地点からは、有孔円板成品・未成品、剣形品成品・未成品、白玉成品等の石製模造品類が出土した。また、滑石の原石が20点余り検出されている。白玉3点は、小型粗製土器に入った状態で検出された。他には、手捏土器3点、土玉3点、土師器の高坏・甕・埴等が出土している。土器の時期からみて、古墳時代中期のものとみられる。生活遺構を伴わず遺物のみ出土ということを見ると、祭祀遺跡としての機能を考慮することもできよう。

## II 基礎資料

### 天神台遺跡

[文献414]

利根川に北面した標高15m～20mの台地の縁辺部に位置している。1978年に調査が行われ、古墳時代後期の2号住居址から滑石製白玉と剝片が出土しており、石製模造品工場の可能性がある。未報告のため詳細は不明である。

### 東明神山遺跡

[文献94・414]

根木名川が利根川に合流する地点の近く、両河川の沖積平野を臨む台地の縁辺部に位置している。大和田玉作遺跡群からは2.5kmほど南西方にあたる。

1971年に調査が実施され、竪穴住居2軒を検出したがこの他にも遺構の存在が予想される。調査された2軒のうち1軒が石製模造品工房で、全掘できなかったものの遺物の種類と量の豊富さは他に見られないもので非常に良好な資料である。南東コーナーに工作用ピットが1基検出され、この中と周辺を中心に石製模造品やその未成品、剝片等が多数出土している。古墳時代中期に属するものとされている。

### 八幡神社遺跡

[文献414]

利根川の沖積低地の中の標高約4mの微高地に位置する。玉類・石製模造品が多数表面採集されており、玉作工房と石製模造品工場の両者の存在がうかがわれるが、残念なことに発掘調査によるものではないので、遺構・出土状況等知ることができないのが惜まれる。

### 大日台遺跡

[文献414]

利根川に面した台地先端部に位置し、西側には治部台遺跡・稲荷峰遺跡と続き、反対の東側には、房台遺跡・小山遺跡と続く。調査歴はないが古くから多くの玉作や石製模造品製作の関連遺物が採集されており、他の周辺の遺跡同様、玉作・石製模造品製作遺跡としてよいだろう。

### 小野女台遺跡

[文献414・415]

小山台遺跡の南に位置する。古墳時代から奈良・平安時代にかけての集落で、古墳時代後期の竪穴住居2軒から石製模造品の未成品、滑石の原石・剝片を出土し、石製模造品工房であると思われる。

### 猫作・栗山古墳群

[香年88・89]

1990年から古墳群の調査が行われ、石製模造品工場の存在がわかったが調査中であるため、詳細は不明である。また石枕・石製模造品類が副葬された古墳が発見され、注目される。

### 松葉遺跡

[文献414]

治部台遺跡と大和田坂ノ上遺跡の中間に位置する。碧玉質の管玉未成品と剝片、滑石の剝片が採集され、玉作遺跡と思われる。

### 平台遺跡

[文献414]

治部台遺跡の南東に位置する。滑石の剝片が採集され、玉作遺跡と思われる。

### 山崎遺跡

[文献414]

仲道遺跡の南に位置する。碧玉の大型管玉状石製品の未成品の他、滑石の剝片が採集された。玉作遺跡である可能性がある。

## 香取郡小見川町

### 増田長峰遺跡

[文献253]

利根川に面した台地上に立地する。1982年に調査され、塚1基と弥生時代から平安時代の竪穴住居3軒を検出した。このうち古墳時代後期の住居址No.2から白玉・紡錘車・有孔円板のほか滑石の原石や叩き石、砥石、礫等を出土した。剝片が出土していないので断定はできないが石製模造品工房である可能性がある。

## 香取郡東庄町

## 前山遺跡

[文献50]

東庄町は下総台地の北東端に位置し、北側の利根川方面から湾入する沖積低地と、南の干潟町方面から湾入する沖積低地が複雑に台地を刻み、その南北間の距離を狭めている。遺跡は南から入り込む谷に張り出した舌状台地に所在する。付近には弥生時代から古墳時代の集落である高部宮ノ前遺跡のほか、羽計、青馬、高部、東和田には古墳が分布する。1966年に丸子 亘氏によって発掘調査が実施され、竪穴住居6軒が検出された。そのうちの5軒から滑石製の有孔円板、剣形品、勾玉、白玉、原石が出土した。なかでも焼失住居であるB-1a号からは有孔円板、原石、砥石が出土し、石製模造品を製作していたとみられる。また、表採によっても成品、未成品、破片が多く得られている。出土土器が少なく明確な時期比定は難しいが、古墳時代中期から後期に属すると考えられる。

## 香取郡大栄町

## 馬洗城址

[文献386]

大須賀川の支谷に面した台地上に立地する。1988年に調査され、城跡関係の遺構のほかに縄文時代中期から奈良・平安時代の竪穴住居も検出された。この中で古墳時代中期の第10号住居址から、量は少ないが白玉・剣形品・有孔円板等の成品・未成品と原石を出土したため、石製模造品工房であると考えられる。やはり古墳時代中期の第7号住居址、第22号住居址からも剣形品、原石を出土しているが、出土遺物がわずかなため石製模造品工房であるかどうか断定はできない。

## 奈戸五区

[文献116]

大須賀川周辺の遺跡分布調査により発見された。白玉未成品のほか滑石の研磨された板状品、滑石剥片等併せて30数点が採集され、石製模造品工房が存在する可能性が高い。

## 千葉市

## 上ノ台遺跡

[文献90・214]

東京湾を臨む標高16.50mの台地上にある。幕張電車基地新設工事、都市計画事業に伴い1973年、1974年、1975年の3次にわたり調査した。その結果、竪穴住居200軒以上を検出し、そのほとんどが古墳時代後期に属する。土錘を多数出土したことから漁撈を生業としていた大集落として有名になった。このうち古墳時代中期の竪穴住居はわずか4軒で、すべて石製模造品工房であった。1次調査で検出した3軒は隣接しており、遺構の遺存状態は必ずしも良好といえないが第1号址には二重構造の工作用ピットを検出し、底面に砥糞と考えられる灰白色粘土質土が堆積していた。遺物は土器類のほか白玉・勾玉・有孔円板・剣形品等の成品・未成品、紡錘車、原石、剥片、屑片等のほか砥石を出土した。この中で勾玉未成品は第1・2号住居址からあわせて14点出土し、勾玉の製作技法を推定することができる。もう1軒の2J-62号住居跡からは白玉と白玉未成品が出土した。

## 馬加城遺跡

[文献189]

東京湾岸の花見川・浜田川の河口に発達した砂丘（検見川低地）を臨む台地上に立地する。1980年に緊急調査された。弥生時代中期と古墳時代後期を中心とした集落で調査区域外には古墳時代中期、平安時代の住居の存在も予想される。検出した古墳時代の竪穴住居6軒は後期に属する。このうち第6・7・8号住居址から滑石製の石製模造品と滑石の剥片・細片を出土した。第8号住居址からは剣形品の未成品を出土するため石製模造品の製作を行っていた可能性も考えられる。しかし、他の2軒については関係する遺物が覆土中に散在したもので量も多くなく、他の住居との構造上の相違がみられないことから報告ではこれらが石製模造品工房である可能性は少ないとしている。

## II 基礎資料

### 東寺山戸張作遺跡

[文献147]

東京湾に注ぐ都川の支流葭川が開析する支谷に挟まれた台地上に立地する。第1次(1974)、第2次(1975)の2回にわたり調査された結果、台地東に古墳群、西に集落を検出した。古墳は後期に属し、直刀・鉄鏃等のほか管玉・白玉等を出土した古墳もある。竪穴住居は11軒のうち台地西側にまとまって検出した9軒が古墳時代後期に属する。このなかで3・4・5・8号住居址が石製模造品工房で、石製模造品(白玉・勾玉形・剣形品・有孔円板)・白玉未成品・勾玉形未成品のほか鉄製鋸・砥石等の道具を出土している。白玉の穿孔した未成品は整った長方形を呈した薄いものが主体で、丁寧に乗っている。雑な多角形のものが多い他の遺跡と違いが見られる。また、石材も緑がかかった透明度のある良質のものである。同じ台地上に小支谷を挟んで隣接する稲毛台東遺跡(東寺山I区)の古墳時代後期の竪穴住居から紡錘車未成品を出土している。

### 大森第1遺跡

[文献92]

通称松ヶ丘谷に面した舌状台地に位置する。京葉道路(第4期工事)・一般国道16号の建設に伴い1971年・1972年に調査され、古墳時代中期から奈良・平安時代の竪穴住居34軒を検出した。このうち古墳時代中期の竪穴住居は25軒、後期は3軒で、石製模造品は各時期の竪穴住居に混入している。中期の竪穴住居で出土するのは第6・25号址、後期では第3・26号址で、特に25号址では多量に出土しているため石製模造品工房とされる。剥片は報告書に掲載してある2点の他にも数点出土している。また第6号址ではチキリ形石製模造品を出土した。

### 西花(大森第2)遺跡

[文献92]

通称大蔵寺支谷と大森支谷に挟まれた台地上に位置する。1971年に調査され、弥生時代から奈良・平安の竪穴住居を90軒検出した。このうち古墳時代中期は33軒、後期は4軒である。石製模造品は多くの竪穴住居から出土してはいるが点数はすくない。このうち特に多いのは第12・035B号址である。どちらも古墳時代中期に属し、白玉、勾玉、有孔円板、管玉、紡錘車等を出土する。わずかだが白玉の未成品を含む035B号址が石製模造品工房である可能性がある。

### 箕輪遺跡

[文献291]

花見川から入り込む小支谷が開析された台地上に立地する。1983年調査され、古墳時代前期から中期の集落を検出した。古墳時代中期の竪穴住居は11軒で、6軒から滑石の原石・破片、石製模造品を出土した。またこのうち3軒には原石や剥片があった。遺物の量が少ないので断定はできないが石製模造品工房であった可能性がある。

## 山武郡芝山町

### 上吹入遺跡

[文献171]

栗山川に合流する高谷川によって開析された谷に面した標高41m~42mの台地上に所在する。東側に続く多古町林遺跡とは同一の遺跡である可能性が高い。1977年に成田用水事業に伴い、同遺跡調査会によって発掘調査が実施されている。

調査は線的であるが、第1号住居址はほぼ完掘され、古墳時代中期の土師器とともに滑石製の遺物を多量に出土している。特に貯蔵穴状のピットから白玉の完成品が一括出土したほか、有孔円板、円板、剣形品、白玉、管玉、未成品、剥片が検出されている。また、工具になるか不明なものの鉄製品も認められる。焼失住居である第2号住居址も古墳時代中期に属し、剣形品、白玉未成品、剥片、原石が覆土を中心に出土している。約半分ほどの調査にとどまった第4号住居址からは、有孔円板、剣形品、白玉、白玉未成品、剥片が出土した。比定時期はやはり古墳時代中期になろう。第5号住居址は、コーナー部分を調査したにすぎないが、白玉未成品と剥片を出土している。

### 3. 千葉県内玉作遺跡の概要

各竪穴住居とも、覆土中に含まれる遺物が多いことから、『千葉県生産遺跡詳細分布調査報告書』では、第1号住居址のみが石製模造品工房とされている。しかし他の3軒についても、床面上の遺物は確かに少ないものの、未成品、剥片、原石等を有しており工房であった可能性が高く、4軒の工房の存在を認めてよいと思われる。

#### 宮門遺跡

[文献105・439]

木戸川流域の標高40mの台地上に所在する。付近には小池地藏遺跡、小池新林遺跡、小池元高田遺跡等の集落跡のほか、山田、宝馬、芝山の古墳群がある。1973年住宅の建設に伴い、山武考古学研究会によって発掘調査され、縄文時代中期の遺構と、古墳時代の竪穴住居4軒が検出された。古墳時代中期の4号住居跡からは、剣形品や有孔円板、原石、剥片が出土し、石製模造品工房であろう。この後、1984年にも成田松尾線関係で調査され、中期の竪穴住居から剣形品を出土した。

#### 殿部田遺跡

[文献105]

栗山川と高谷川の合流地点に向かって張り出す標高10m～15mの台地の南側に所在する。1972年に土取りに伴い芝山町教育委員会によって緊急調査が実施された。この結果、石製模造品工房が1軒検出され、有孔円板等が出土したようである。未報告であるため詳細は不明である。

#### 下吹入東台遺跡

[文献340]

高谷川に面した台地上に立地し、1km程北には上吹入遺跡、多古町林遺跡等がある。1986年度に2次にわたって調査された。古墳時代の遺構としては前期の竪穴住居1軒、中期の竪穴住居2軒が検出され、中期の1・3号住居址が石製模造品工房と考えられる。1号住居址からは白玉のほか紡錘車の成品と未成品が出土した。また3号住居址からは白玉成品・未成品、勾玉模造品の成品・未成品、有孔円板等の滑石製品のほかコハク製棗玉1点、コハクの加工が認められるもの1点、コハク小破片2点出土し、石製模造品製作のほかコハク製品の製作を行っていた可能性があり注目される。

### 香取郡多古町

#### 林遺跡

[文献293]

栗山川に合流する高谷川に開析される、標高50m前後の台地上に所在する。同台地上には上吹入遺跡があり、同一の遺跡である可能性が考えられる。1978年から1981年にかけて、県営畑地帯総合土地改良事業の実施に伴い、同遺跡調査会によって4次にわたる調査が実施された。調査の結果、遺跡全体の成果として古墳時代から歴史時代を主とする竪穴住居140軒をはじめ、掘立柱建物23棟、古墳3基、円形周溝1基、方形周溝1基等が検出された。10地点に分かれる調査地区のうち、長井戸・新畑地区において、古墳時代中期の竪穴住居12軒が検出され、その中の3軒（第104・105・106号住居跡）が石製模造品工房とみられる。3軒は主軸方向をほぼ同じくしており、同時期に所在していたと考えられる。

### 東金市

#### 道庭遺跡

[文献296]

九十九里海岸平野を一望する、標高52m前後の台地上に位置する。周辺には久我台遺跡、妙経遺跡、平蔵台遺跡のほか、古墳群が密集して分布する。1977年から1979年にかけて千葉県農業大学校建設に伴い同遺跡調査会によって発掘調査が実施され、弥生時代中期の集落と方形周溝墓を中心に各時代の遺構が検出された。古墳時代の竪穴住居も多数検出され、その中の3軒から滑石の剥片が出土している。特に滑石製品の量が多い1軒が石製模造品工房であると考えられている。弥生時代以外は未報告のため詳細は不明である。



## II 基礎資料

### 市原市

#### 草刈六之台遺跡

[文献270・407]

村田川の右岸台地上に位置する。小支谷をはさんだ北側に草刈遺跡、村田川の対岸に菊間遺跡、大厩遺跡などがある。

旧石器時代から中世の遺構を多数検出したが、中心となるのは古墳時代前期から後期の集落である。このなかに古墳時代前期の玉作工房1軒が含まれていた。県内の玉作遺跡としては最も南に位置するものである。鳥取県長瀬高浜遺跡の玉作工房と類似した長方形の工作用ピットをもち、緑色凝灰岩を用いた管玉を製作している。

南縁中央部にある草刈3号墳からは特種な彫刻文を施した石釧を出土し、堅穴住居からも多数の石製模造品類を出土した。また紐をもつ大型の鏡の石製模造品も出土している。

### 袖ヶ浦市

#### 宮ノ台遺跡

[文献47]

小櫃川の中流で、沖積地の面積が急に増しはじめる地域の北側の、標高32m～33mの台地上に所在する。野田遺跡はここから北へ約2kmの地点に立地する。

この遺跡上には国勝神社が所在し、その神職によって採集された剣形品が、椋山林継氏の目にとまることになり、1966年同氏によって、1958年・1959年に表採された有孔円板、紡錘車と合わせ、それらの資料報告が行われた。これを受け、1967年森谷ひろみ氏による発掘が実施された。

発掘は、1m×20mのトレンチ調査で、遺構としてはV字形の断面を呈する溝状遺構が検出されたにとどまっている。玉作関係の遺物では、剣形品、有孔円板、白玉、石製模造品破片、石屑、砥石5点が出土した。さらには鉄製模造品として報告した鉄製品7点、手づくね土器が認められる。祭祀関係の遺跡とされているが、剥片、工具、各種の成品から石製模造品の製作遺跡ともみられ、その可能性は大きい。

#### 野田遺跡

[文献123]

小櫃川中流域の北側で、宮ノ台遺跡からさらに内陸部へ入った台地上に所在する。

1974年、東洋大学考古学研究会の、袖ヶ浦町(当時)におけるフィールド調査の際に玉類、石器類、土器類が発見された。

表採品は主に石器類であるが、玉類では碧玉製の管玉1点のほか、滑石製の白玉、白玉未成品、管玉未成品と滑石の原石がある。これらの玉類は、天地返しが行われた畑の一部分に集中して発見されたもので、石製模造品の製作遺跡である可能性を高くしているが、詳細については明らかになっていない。

#### 文脇遺跡

[文献427]

遺跡は小櫃川流域の北岸に所在する広大な台地に位置し、標高約40mを計る。公民館・運動公園建設事業によって(財)君津郡市文化財センターが発掘調査を実施している。弥生時代後半から古墳時代前半にかけての住居が遺構の大半を占め、約300軒ほどが調査されており、さらに弥生時代の方形周溝墓や古墳時代中期の住居が2軒調査されている。その古墳時代中期の住居のうち1軒が石製模造品工房で、滑石の原石をはじめ白玉の成品・未成品・剣形品が出土している。工具として砥石も検出されている。また弥生時代後半から古墳時代前半の住居の中で、大型の焼失住居の中から多くの土器とともに、銅釧・勾玉等の特殊遺物が検出されている。

## 木更津市

## マミヤク遺跡

[文献396]

遺跡は1985年度から1988年度にかけて調査された小浜遺跡群の内の一遺跡ではかに依ヶ谷遺跡・古墳群がある。調査は小浜地区土地区画整理事業に先立って1985年・1986年度にかけて調査されている。遺跡は、東京湾に面した丘陵の先端部分に位置している。遺跡の位置する丘陵は海岸線近くまで接近し、旧海岸線まで約500mの距離である。丘陵北向き傾斜面に遺跡は立地し、南北長350m程である。丘陵南側の標高は約65m、北側尾根先端の標高は約40mで遺跡の両端で約25mの標高差があり南側は特に傾斜が急になっている。調査面積は12,000㎡であるが、遺跡の広がりとしてはさらに南東部・北東部に展開している。

集落は、竪穴住居を主体とし弥生時代後期から古墳時代～奈良時代にまでわたり総数275軒を数える。弥生時代後期のものは89軒・古墳時代前期78軒・同中期41軒・同後期59軒・奈良時代8軒である。南側に古墳群の築造されたことにより集落は北に移動していることがうかがわれる。これらの中で古墳時代中期の集落には、住居跡の他に石製模造品の工房址が1軒、2か所の祭祀遺構が検出されている。工房は住居の重複により明瞭ではないが、不整な方形を呈し南北長4.1mを測る。床面が軟弱で壁の依存も良くなかった。炉・壁溝は存在せず、床面に7基のピットが検出されたが柱穴とは考えられず工作用ピットと考えられる。床面上または床面に食い込んだ状態で滑石製の白玉未成品及び剝片が検出されており、滑石製の白玉工房址と考えられる。完成品は1点もなくまた白玉以外のものは検出されていない。

また、2か所の祭祀遺構は1号祭祀遺構と2号祭祀遺構に分けられ、1号祭祀遺構は、土師器・須恵器・石製模造品と大量の白玉、特殊な鉄製品類が3.5m～4mの範囲にわたって分布している。石製模造品等は滑石製の鏡形品・有孔円板・偏平勾玉・剣形品・白玉・白玉未成品・剝片類、碧玉製の管玉が出土し、さらにそれらから約25m離れた地点からであるが滑石製子持勾玉1点が検出されている。2号祭祀遺構からは、貝殻・焼土の堆積層がみられ、土師器・須恵器に混じって石製模造品・白玉・鉄製品・軽石等が検出されている。石製模造品等は滑石製の偏平勾玉・有孔円板・白玉が出土している。1号祭祀遺構は、白玉の総数約2,000点以上を数え祭祀遺物の中では中心的な位置を占めていたと考えられ、それ以外の石製模造品の数量は多いとはいえない。白玉の実際の使用状態は、出土状況から復元するのは難しいとしている。遺物の中に白玉未成品・剝片等が検出されることから、祭祀執行の場において応急的に白玉等の増産をしたものと考えられるとの指摘がされている。また、白玉の供給源として石製模造品工房が主要な役割を担っていたものとしている。そしてこの工房の位置づけを、集落内から多数の工房の検出された「工人集団の集落」遺跡と対比して、集落内での自給自足的な生産に限られた工房としている。

## 君津市

## 新御堂荘台遺跡

[文献23・42]

小糸川下流域の標高65m～67mの台地上に所在する。1958年縄文中期の遺跡として、立正大学によって調査されたが、その折りに地主によって集められていた石製模造品が注目されることとなり、その後それら祭祀遺物の出土状態を確認する発掘調査へと、調査目的の変換が計られた。

しかし調査では出土状態を明確にすることはできず、僅かに出土層位についてある程度のみとおしを得たにとどまっている。表採によって得られている遺物は、土師器のほか、有孔円板、剣形品、白玉等の石製模造品がある。これまで工房の検出はないが、椋山林継氏により石製模造品製作遺跡の可能性が高いと指摘されているものの、詳細は不明である。



## Ⅲ 各 論

### 1. 旧石器～縄文時代の玉

#### A. はじめに

これまで千葉県内の旧石器～縄文時代の玉に主眼を据えて、総合的な研究を行った例はわずかである。集成に関しては、硬玉製大珠など個々の玉を対象とした蓄積はあるものの、種類を問わず県下全域にわたっているのは、千葉県立房総風土記の丘の「房総出土の古代の玉」<sup>1</sup>が唯一になろう。また攻玉技術をめぐる問題については、製作工程を窺い知る資料を出土した二・三の遺跡の報文中で、工程と原材が組上りにのぼっているにとどまる。生産に関連するところでは、県内の攻玉遺跡が『千葉県生産遺跡詳細分布調査報告書』で紹介され、原材の産地についての予察も示され、はじめてその状況が整理された<sup>2</sup>。しかし資料の増加には著しいものがあり、多角的に新たな試みが必要な時期を迎えている。

以上のような研究現状に照らして、本紀要は、現時点での県内における縄文時代を主とした玉の実態を把握することを一つの目的にしている。そのためにまず出土遺跡の集成を実施し、玉の種類、原材、出土状況等を再整理した。その結果、明らかになった部分が多いと決して言えないまでも、遺跡数の増大とともに幾つかの問題も生まれてきている。ここにその一部を提示し、新たな段階に備える一助としておきたい。

#### B. 集成結果の概要

千葉県内玉類出土遺跡の集成で得られた結果の概要を、以下に簡単にまとめておく。

a. 旧石器時代 本県の旧石器時代に比定される遺跡で、装身具と考えられる遺物を出土しているのは、四街道市に所在する出口・鐘塚遺跡<sup>3</sup>の1か所である。「垂飾様石製品」と仮に呼んでいる磨製の小型品で、比較的近接した状況で2点が出土している。出土層位は立川ローム層の第2黒色帯の下部とみられている。ただ有孔装身具との判断には問題も含まれているので、この点後述したい。

b. 縄文時代 全国的に石材を原材とする玉類の出土が一般化するのには縄文時代にはいつからである。当地域においても例外ではなく、今回の集成で、48市町村に所在する165か所の遺跡で出土が確認され、点数の総計は1,047点以上を数えることが確実となった。また攻玉を行っていた可能性の高い遺跡は8か所確認できた。

遺跡の分布 はじめに玉類を出土した遺跡の分布にみられる特色から述べておこう。最も端的な傾向は、南部に比して北部により多くの遺跡が認められたということである。正確な線引きではないという前提のもとに、北部を千葉市以北、南部を市原市以南と仮定して遺跡数を比

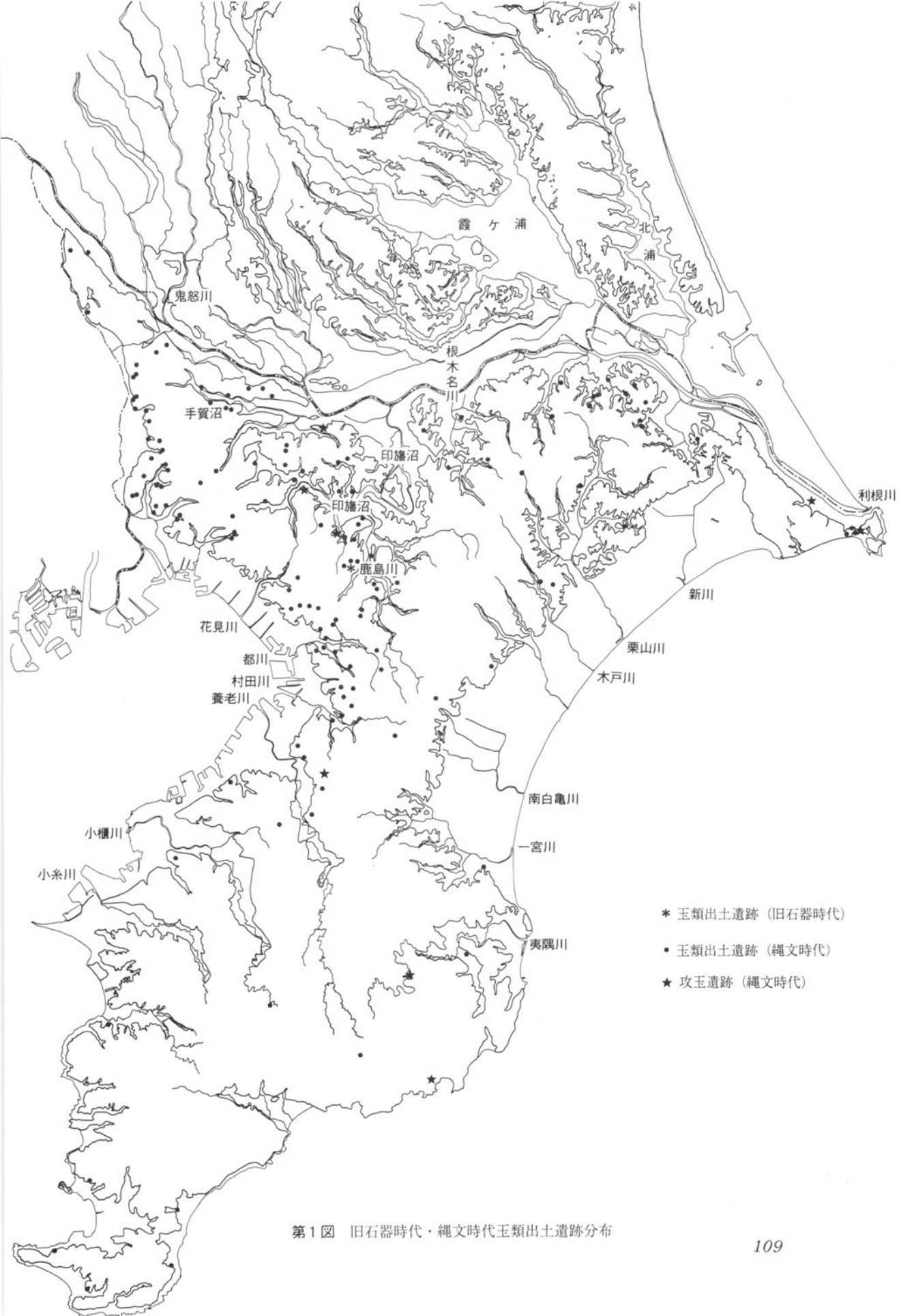
### Ⅲ 各論

較すると、北部に135遺跡確認できたのに対し、南部では30遺跡を抽出したにすぎない。県の北部はその大部分が下総台地に含まれ、遺跡のほとんどがその台地上に立地する。それに対し、房総半島の南は起伏のある丘陵地帯が続いている。このような地形的条件に加え、開発が早い段階から進められていたことによる発掘調査件数の違いが、遺跡数に反映されたと理解できる。今後南部地域においての開発行為に伴う発掘の増加が予想されても、玉類が検出される機会という意味において、しばらくこの傾向は変化しないと思われる。

**玉類の種類** 次に出土している玉の種類について瞥見し、問題点について指摘したい。慣用的な名称にしたがうと、定型の特徴を有する部類では、玦状耳飾、大珠、玉斧、管玉、丸玉、白玉、勾玉などが存在しバラエティーに富んだ様相を呈する。しかし、完形かそれに近い玦状耳飾を別にすれば、玉の種別を明確にする分類基準が曖昧であるため、報告書ではしばしば、「垂飾」とか単に「玉」との記載をみかける。報告者の意図するところもあろうかと酌みつつも、集成の際、一部については掲載実測図に基づいて、見かけ上同形態を示すものは統一を図るようにした。厳密な数をつかむにはなお障害が存在するが、一応玦状耳飾の出土遺跡は48遺跡63点以上、大珠29遺跡40点以上、玉斧6遺跡8点以上、管玉（管玉状を含む）14遺跡20点以上、勾玉25遺跡37点以上、白玉19遺跡489点以上、丸玉12遺跡67点以上、玉・小玉22遺跡47点以上、また垂飾としたものが50遺跡110点以上あることが判明した。それぞれに以上と付したのは、実際は集計数を上回ると考えられるからである。未公表や見落とし、それに個人所有を加えれば、優に1,100点を越える玉類が県内で発見されていると考えられる。

**出土状況** 玉類の出土状況については、顕著な特徴として遺構に伴う例が極めて少数であるということを描ける。数字の面では、165遺跡で1,000点を上回る出土点数のうち、1遺跡の1遺構で白玉ばかり372点出土した四街道市御山-1遺跡を例外とすると、遺構から出土しているのは26遺跡の40点である。これが玉の帰属時期の比定を大変困難にしている。たとえ包含層からの出土であっても、存続期間が短い遺跡であれば、時期を絞ることが可能となる。だが遺跡の多くは数時期にわたって営まれ、よほど条件が良好でなければ伴出する土器を限定するのは難しい作業となる。大部分が共伴する遺物を特定できない状況で出土するからである。このような問題点は古くから再三取り上げられてきているが、やはり房総の玉の基準資料の作成を遅らせる一因ではあるだろう。不確実はあるとして、時期ごとの遺跡数は、早期が1遺跡、前期から中期初頭が34遺跡、中期から後期初頭が53遺跡、後期から晩期が39遺跡、不明が41遺跡である。

**攻玉遺跡** 攻玉を実施していたと考えられる遺跡は8か所である。時期的な内訳は前期1か所、中期1か所、後期から晩期に属する遺跡が6か所となる。地域分布では北部に5遺跡、南部に3か所をそれぞれ数え、玉全体の出土遺跡の割合と対比すると、南部地域もかなり高い分布傾向を示している。ところで縄文の攻玉遺跡を規定する基準が今のところ不明確であるため、



第1図 旧石器時代・縄文時代玉類出土遺跡分布

Ⅲ 各 論

第1表 市町村別の縄文時代玉類出土状況

	市町村名	遺跡数	早 期	前~中初	中~後初	後~晩期	不明	点数
1	関宿町	2		1	1			2
2	野田市	1		1				1
3	柏市	3		3				5
4	流山市	7		2		3	2	10
5	我孫子市	5		2	2	1		7
6	沼南町	3		1	1	1		3
7	松戸市	12		6	4	1	1	25
8	印西町	7		2	3	2		97
9	栄町	2			2			2
10	本埜村	1					1	1
11	成田市	3				2	1	7
12	鎌ヶ谷市	2			1		1	2
13	市川市	6		1	3	2	1	13
14	船橋市	5		2	2	1		19
15	白井町	3		2	1			5
16	八千代市	2				1	1	36
17	印旛村	2				1	1	2
18	佐倉市	11			4	4	3	70
19	酒々井町	1					1	1
20	富里町	1				1		11
21	浦安市							
22	習志野市							
23	四街道市	5		2		3		380
24	八街町							
25	佐原市	4			3		1	5
26	下総町	1					1	1
27	神崎町							
28	小見川町	6		1	3		2	7
29	東庄町							
30	大栄町	2					2	2
31	栗源町							
32	山田町	1			1			1
33	干潟町							
34	海上町							
35	千葉市	23	1	4	7	4	7	53
36	芝山町	2			2			2
37	多古町	2					2	2
38	八日市場市	1					1	2
39	旭市							
40	飯岡町	1			1			1
	小計	127	1	30	41	27	29	775

	市町村名	遺跡数	早 期	前~中初	中~後初	後~晩期	不明	点数
41	銚子市	4			1	1	2	109
42	山武町							
43	横芝町	2			1	1		11
44	松尾町							
45	光町							
46	野栄町							
47	成東町							
48	蓮沼村							
49	東金市	1				1		1
50	大網白里町	1				1		3
51	九十九里町							
52	市原市	11			4	4	4	90
53	長柄町							
54	茂原市							
55	長生村							
56	白子町							
57	長南町							
58	睦沢町							
59	一宮町	1				1		1
60	袖ヶ浦市	2				1	1	2
61	木更津市	1			1			1
62	君津市	3				1	2	4
63	富津市	2		1			1	3
64	夷隅町							
65	岬町							
66	大多喜町	3			1	1	1	15
67	大原町	1		1	1			6
68	御宿町							
69	勝浦市	1		1				14
70	天津小湊町							
71	鴨川市							
72	鋸南町							
73	富山町							
74	富浦町	1			1			4
75	三芳村							
76	丸山町	1			1			3
77	和田町							
78	館山市	2		1	1			3
79	千倉町	1					1	2
80	白浜町							
	小計	38	0	4	12	12	12	272
	総 計	165	1	34	53	39	41	1047

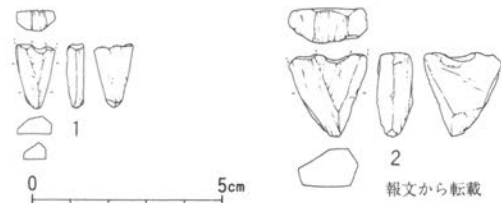
玉を出土する遺跡は潜在的な攻玉遺跡になるともいえる。便宜的に今回は攻玉が行われていたという判断は、完成品と共に原石や未成品の出土を第一においた。またその観点は次の項でふれることにするが、攻玉遺跡は原材料の産出地との関係も深く係わり、製作工程および方法・技術論のほか、流通や消費を巡る問題も含むため、派生する課題は多方面にわたる。

### C. 県内出土玉類の推移

a. 旧石器時代 本県ではローム層から出土する人工遺物の圧倒的部分が、石材を用いた道具で占められている。石材を原材とした玉類であれば、石器同様ローム層中でほとんど変化を受けずに保存されているはずである。また下層の発掘件数も増加の一途をたどっているため、包含されていれば発掘される機会は多分にある。ところが今日までで、装身具と考えられる石製品を検出した遺跡は1か所である。これが装身具の普及の度合いを如実に物語っている。

四街道市に所在する出口・鐘塚遺跡の2点の垂飾様石製品がそれである。出土層位は第2黒色帯の下部で両者は距離を置かずに出土し、遺構に伴う状況は観察されない。2点とも欠損品と推察されており、現存部の形態は三角形を呈し表裏に研磨痕跡を残し板状に整形されている。穿孔された部分で欠損したと判断され、それによって孔部がわずかしこ遺存しないため、穿孔状態を不明にしている。残存する穿孔部の観察によれば「穿孔部には錐による回転痕はなく、

平行条線が密に並走している」という。この遺存する平行条線の由来については、穿孔後の「孔壁の修整」によるものとする、穿孔を前提とした報告者の考えと、欠損品とは受け止めず、本来の形態が保たれていたとすれば「穿孔品でないという考えも成り立つ」という見解が提出



第2図 最古の装身具

1, 2: 出口・鐘塚遺跡

されている。後者の意見は、完形の類例発見を待って垂飾品であることを証明しようという慎重な立場である。いずれにせよ追加資料の発見は必要である。ただこの「垂飾様石製品」が利器的な機能をもっていないのは明らかなので、装身具の範疇に入る性格を有していた、と解しておきたい。

b. 縄文時代 この時期については4区分して記述を進め、出土玉類の特色と、併せて製作工程の事例を示すことにする。

早期 全国的に視野を広げると、草創期の玉も散見され、希少であった旧石器時代とは一線を画している。転じて県内に目を向けると、これまでに縄文時代初頭まで溯る玉類の検出は報告されていない。今までのところでは、撚糸文土器に伴っていた可能性がある、千葉市東大野第3遺跡<sup>6</sup>の2点の出土品が最も古くなると考えられる。1点は管玉と丸玉の中間的な形態を呈する欠損品で、石材は蛇紋岩よりは軟質で滑石に近い石材が使用されている。もう1点は隅に丸さのある略方形に整形された板状の垂飾である。これには2か所に孔が穿たれており、さらに



### Ⅲ 各論

一端に切れ込み状の穿孔痕跡をもっている。この遺跡は、現在整理作業が進行中なので、より明確な時期比定が行われることになろう。

然糸文に続く沈線文、条痕文の時期には類品や別形態の玉の出土が見当たらなくなる。孔を穿つ方法と技術はすでに獲得されていたので、各種石材への応用はいくらでも可能であったと容易に想像することことができる。それでも未だ零細な段階で、発展の様相が看取されないのは、技術面の未克服が残されていたのではなく、需要とか原材料の入手ルート等、当時の社会を取り巻く情勢が第一にあったと思量される。

**前期から中期初頭** 前期に至ると、それまでと一変して各種の形態をもつ玉が出現する。そして何と言っても玦状耳飾の盛行がこの時期を特徴づける。また管玉、丸玉、小玉、垂飾はそれぞれ少しずつ形を変えてバラエティーをもつので一層多彩な展開となる。石材は滑石、蛇紋岩が多くを占め、加えてヒスイ製の玉も見つかるようになる。第3図6は我孫子市西野場遺跡の竪穴住居から出土した管玉で、原材はヒスイといわれている。他にも船橋市下郷後遺跡<sup>8</sup>の管玉がヒスイである。玉類の発見のほとんどは包含層中においてであるが、遺構から出土する場合は土坑に伴う例が多い。

**消極的な玉の生産と攻玉** さてここでもう一度この時期を代表する玦状耳飾に話を戻し、そこから派生して、生産の観点について述べておきたい。玦状耳飾は滑石などの比較的軟質な石材を使用することと、形態上の特質とにより、完形品として出土することは希有で、どこか欠損しているのが常であるような観がある。第3図2は1と対になる形で土坑から出土したもので、二つに割れてから補修孔を穿っているのがわかる。おそらく補修して装着を続行していたのであろう。このような補修のためと考えられる孔は欠損品の多くに認められ、また、破断面に調整が施されたものも少なくない。垂飾への作り替えを行ったものも確かにある。こうした作業が集落内で行われていたことは疑いないところで、仮に「消極的な玉の生産」と呼んでおきたい。続けていうと、これに対比できる生産行為が「攻玉」で、その実施場所が「攻玉遺跡」と位置づけられるのである。ここでの攻玉遺跡の現象面での判断基準は先に記したとおりである。次に前期の玉の製作工程を例示しておきたいと思う。



第3図 前期から中期初頭の玉類  
1, 2: バクチ穴遺跡 3: 中山新田II遺跡 4, 5: 飯山満東遺跡 6: 西野場遺跡

勝浦市長者ヶ台遺跡の玉<sup>10</sup> 発掘による資料は僅少で表採品が多い。しかし地表面でさえ剥片や未成品、半完形品が揃っているのだから、攻玉遺跡とするに不足はないであろう。それでは図に則して説明を進める。

第4図の1・2は円盤状に整形された後に磨きを施して、前の段階まであったであろう凹凸を取り去る工程の途中のものである。表裏両面と側面に研磨痕跡がはっきりと認められ、1の裏面を除くと、まだ研磨方向の変化するところに微弱な稜を残している。

3は研磨によって表裏が平滑になったところに孔位置を決定し、穿孔を開始している。穿孔は両面から行われ、孔底には丸さが認められる。4は穿孔完了の直後である。穿孔方法は、寺村光晴氏の分類による「連続的回転運動」<sup>11</sup>によるものと考えられるが、これに用いられた穿孔工具の特定は難しい。

5は孔の拡大と切目の作出がうかがわれる。4の様な穿孔が完了すると、今度は「非連続回轉運動穿孔」で、「切削手法の一種」である「挟り穿孔」<sup>12</sup>によって孔径の拡張が実施されたと推測できる。このことは孔壁に残る条痕跡が周回せず、数か所で止まっている状況から理解することができる。次に挽き切りにより切目が作られ、切目の幅を広げるため、右の脚にさらなる挽き切り手法を行使している。

以上により、不足する工程や同時期の所産の保証を欠いてはいるものの、一応塊状耳飾の製作工程を垣間見ることができる。同様に第4図6～10も丸玉の製作工程を示している。6・7は研磨段階で、8は穿孔が完了している。9・10は仕上げが行われた完成品である。

これら成品の流通は明らかでないが、ここで製作されていた玉類の原材については、房総に産する岩石との予想がたてられており、さらに周辺地域に同様な遺跡が存在することに期待が寄せられている。

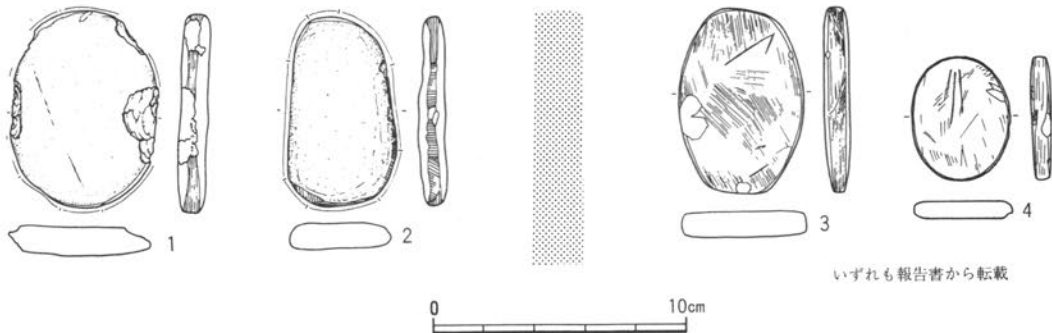
長者ヶ台遺跡および周辺で展開していた攻玉の規模が、どの程度であったかの解明は将来に委ねるとして、「消極的な玉の生産」に関連する資料は随所で認めることができる。最も一般



第4図 勝浦市長者ヶ台遺跡の玉類

### Ⅲ 各論

的であるのが、欠損した玦状耳飾の再利用に伴う加工で、他に未成品が集落に持ち込まれた例が少数ながら存在する。第5図の1・2がそれである。加工工程がどこまで進捗した段階に遺跡に搬入されたかわからないとしても、形態的に3・4の岩手県北上市滝ノ沢遺跡<sup>13</sup>の「円盤状石製品」との類似性が指摘されている<sup>14</sup>。ここから加工を進め、玦状耳飾か垂飾への完成を目指したものであろうか。



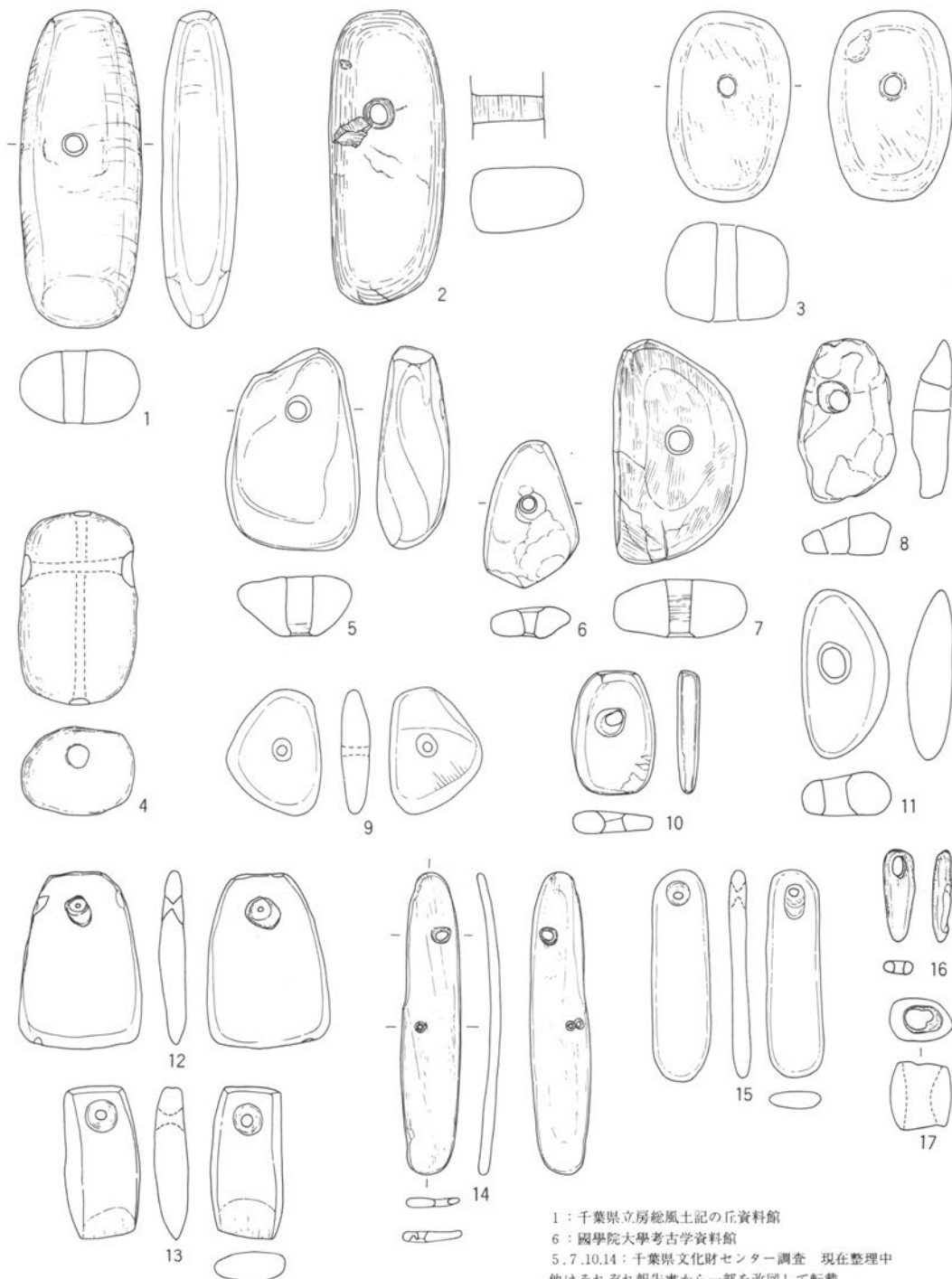
第5図 穿孔前の玦状耳飾未成品

1:上貝塚遺跡 2:若葉台遺跡 3,4:岩手県滝ノ沢遺跡

このように本県においては、長者ヶ台遺跡のように原材の入手から始まる一連の工程、すなわち攻玉という作業を経て行われる生産と、再加工、転用、搬入未成品の加工に伴う消極的な玉の生産が併存していたと考えられる。そして、攻玉によって生産された玉類がどこで消費されたか判明するまでは、どちらも自給自足の生産であることに差異はないといえる。

**中期から後期初頭** 玦状耳飾の伝統がわずかに残るが、第一に大型の玉類が活況を呈する。本期に特徴的にみられる玉類は大珠、玉斧で、他に多様な垂飾、管玉、丸玉状がある。石材に認められる特色は、ヒスイ製品が多くあることと、コハクの使用を挙げることができる。出土状況は、遺構に伴う場合が希という現象に変化はない。

この時期を代表する大珠をどのように規定するのか、研究者間によって若干の相違があるようだが、広くは八幡一郎氏の定義にしたがっていると思われる。形態に関しては、その後寺村光晴氏が再び整理<sup>16</sup>されているが、八幡氏の分類に大きな変更を要する部分はなく、今日においても分類の根底となっている。県内出土の大珠も形態的には、鏢形(第6図1・2・3・5~11)と緒締形(4)とがあり、前者には半月形をなすもの(7・9・11)、上下端のいずれかが肥大しているもの(5・6)がある。また一般には斧形を呈する部類を玉斧として分離して扱っており、12・13がそれに該当する。ただし玉斧はヒスイ製だけを指し、それ以外は有孔石斧とする場合が多い。しかし石材を問題にしなければ、現実には10のように斧形に近いがそうとも断定できず、さりとて8のような不整形とは同様にできないものもあるので、石材を問わずここでは玉斧とした。未だ細かな分類を行う余地も多少残されてはおり、垂飾とか玉と報告されたなかに大珠に分類できるものを見受けるのも、この辺に問題があるようである。一応



1：千葉県立房総風土記の丘資料館  
 6：國學院大學考古学資料館  
 5.7.10.14：千葉県文化財センター調査 現在整理中  
 他はそれぞれ報告書から一部を改図して転載

第6図 中期から後期初頭の玉類

- 1：片野遺跡 2：堀之内貝塚 3：草刈貝塚 4：白井通路貝塚 5.7.10：武士遺跡 6：松山遺跡 8：深名瀬島遺跡  
 9.13.15：子和清水遺跡 11：箕輪遺跡 12：一本松遺跡 14：有吉北貝塚 16：龍角寺ニュータウン遺跡 17：中峠貝塚

### Ⅲ 各論

集成での出土点数は、29遺跡で40点にはなる。

大珠は、その原材がヒスイであるものを特に硬玉製大珠と呼んで、他の原材から作られた大珠と分けている。周知のように国内におけるヒスイの原産地は限定されており、考古学上の使用は新潟県の糸魚川産地と富山県の宮崎産地が利用されているにすぎない<sup>17</sup>、といわれている。また硬玉製大珠の製作は、その産出地に近接した遺跡に限られると考えられ、関東地方ははじめ各地で発見される大珠の製作地も、ヒスイ産地地方に求められている。今のところこれを否定する材料はなく妥当な見解である。第6図1～6はヒスイ製であり、穿孔技術の確かさから、ヒスイ産出地方の攻玉遺跡からもたらされたものと断じて誤りないだろう。7はヒスイ製ではない鏝節形大珠で典型的な半月形に整形されている。これには仕上げの研磨が施されていないので、半成品の状態で搬入されたとみることができる。穿孔はほとんど片側から行われ、技術的にはヒスイとの違いはない。それに対し、10・11などは石材選択や、両側からの穿孔であること、孔壁に研磨を施すなどの手法上の違いから察すると、ヒスイ産地で製作された可能性は低くなる。12・13の玉斧、14の篋状品、15～17も大珠を製作していた硬玉の攻玉遺跡での製品でなく、別に生産地を探す必要がある。

前期の塊状耳飾は欠損品に対して、補修用の穿孔や破断面の研磨により、再利用を試みていたが、ヒスイ製品には再加工の状況、特に穿孔の痕跡をうかがうことはない。これは石材の違いからくる穿孔の難易が原因の一つであるほか、ヒスイ製大珠あるいは大珠がもっていた意味によるところが大きであったと考えられる。

ところでこの時期の軽石製品の一部に大珠を模したと思われるものが存在する。従来から軽石製品の使用については、砥石状の用いられ方や、漁網の附属品との見方があり、素材の悪さからか大珠や垂飾の模倣に結びつけることは少ない。丁寧に整形が施されていたり、穿孔部位が大珠と同位置になるものなどは、模倣である可能性の検討も必要である。仮に硬玉製大珠の模倣であるとするならば、それは縄文人の並々ならない宝器への憧れの現れである。

次にコハクを原材とする玉について述べておかなければならない。コハクで作られた玉類は、前期ではまだ不確定であるが中期中葉には確実に存在し、以後晩期まで玉の素材の一つになり、房総の地ばかりでなく各地においてその出土が認められる。今回県内の出土遺跡は、18か所に確認され、その多くが中期に比定されている。第7図1～9が代表例で、大珠、垂飾、不定形の小玉などの種類が存在する。

**粟島台遺跡のコハク攻玉** コハクは本県の東端に位置する銚子が産出地として知られ、粟島台遺跡の発見によりコハクの攻玉が明らかとなった。特に1989年に行われた調査では、56点の<sup>18</sup>コハク資料の出土があり、より一層アンバールートの中核的性格を確固たるものにした。それでは発掘資料により、玉の製作工程を確認しておくとする。

第8図1は裏面に原面を大きく残しており、小型のコハク塊を分割したものと考えられる。

ここから目的とする玉の形態と大きさが制約されてくるので、古墳時代の玉作工程に準ずるならば、荒割から形割の段階に相当する。

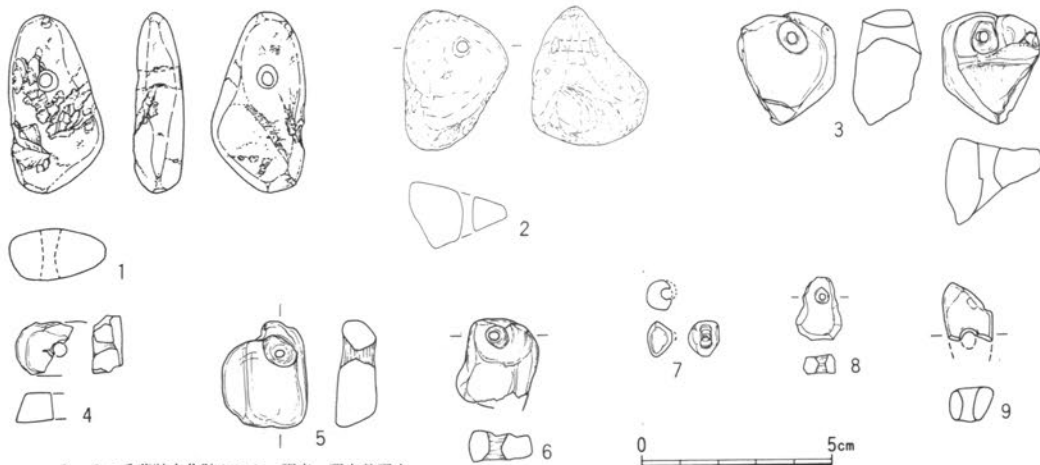
2は周辺に原面を残す剥片で、表裏に剝離がみられるものである。整形の初期段階を示すと考えられる。

3は研磨工程を経て、穿孔工程に進捗したことがわかる。穿孔は片面のみに残り、逆円錐状の穿孔断面を呈する。

4は両面から穿孔を行い、これを完了したところである。孔壁がくの字状になったままなので、孔壁の修整はまだ実施されておらず、仕上げの一步手前といった状況である。

この後仕上げの工程に移り、完成品となったと考えられる。

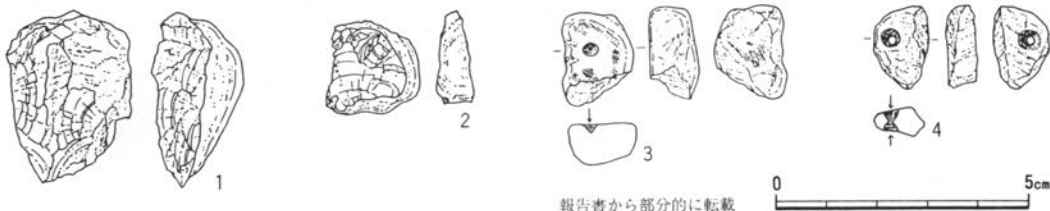
粟島台遺跡では、コハクの加工に伴うと予想される平砥石や筋砥石の攻玉工具の発見がある<sup>19</sup>。しかし穿孔用と断言できる工具の出土は知らない。軟質な素材なので、木製か骨製の錐や、尖頭部を有する石器類もその候補になる。穿孔は両面から実施されるのが普通なので、軟らかい素材に対してこの穿孔方法は矛盾があるような気もする。破損の心配、技術の未熟に要因があったかもしれないし、適用していた穿孔方法が、連続的回転運動ではなく抉り穿孔に近い穿孔であったとも考えられる。これらの解明と工房跡の検出、交易ルートがこれからの課題である。



3～8：千葉県文化財センター調査 現在整理中  
他は報告書から転載

第7図 中期のコハク製玉類

1：粟島台遺跡 2：東長山野遺跡 3,4：草刈遺跡 5～8：有吉北貝塚 9：向原遺跡



報告書から部分的に転載

第8図 コハクを原材とした玉の製作

いずれも銚子市粟島台遺跡

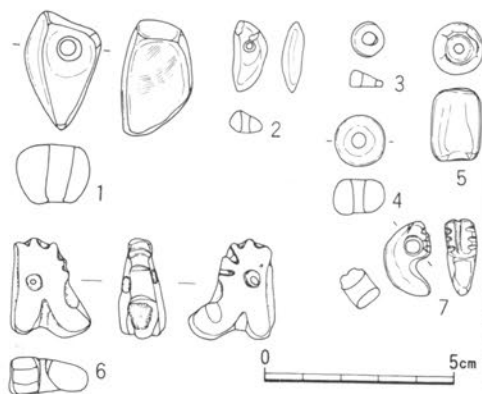
### Ⅲ 各論

ヒスイ製品に代表されるように、原材の産出地に隣接して攻玉遺跡が立地し、そこでの生産品が各地に運ばれる、攻玉遺跡主体型の玉文化が展開するのが本時期である。房総では粟島台遺跡がそのような、原材料の産出地に隣接する主体型生産の核と位置づけられ、石製玉類の再加工などの消極的な玉の生産がやや低迷する時期と映る。

**後期から晩期** 大型の玉類が盛行した前段階と対照的に、小型化の傾向に向かう。種類では、鏢節形大珠をそのまま縮小したような垂飾や、白玉、丸玉、管玉、勾玉が認められる。この時期に比定できる出土遺跡は39を数える。これは縄文時代の時期ごとの遺跡調査数と玉の検出機会と比較した場合、特に晩期の遺跡での玉類の出土頻度が、他の時期を圧倒していることを示している。出土数の増大は、すなわち玉類の需要の増大を意味する。本期の玉類は、単独で垂れ飾りとして用いるのではなく、幾つかの玉を組み合わせたか、連珠状に繋がるような在り方であったと考えられ、一つの装身具が複数の玉による構成になる。この点が前の時期との大きな変革の現れとみることができる。遺構に伴って出土する玉類はわずかであるが、第10図の四街道市御山-1遺跡の土壌出土例<sup>20</sup>は、本期の玉の使用の状況を良く示している。

玉類の需用に応えるかのように、攻玉遺跡がこれまでにない状況で出現する。印西町天神台貝塚<sup>21</sup>、八千代市神野貝塚<sup>22</sup>、佐倉市神楽場遺跡<sup>22</sup>、銚子市余山貝塚<sup>23</sup>、市原市武士遺跡<sup>24</sup>、大多喜町堀之内上の台遺跡<sup>25</sup>が玉類の製作が行われた遺跡で、いずれも拠点的な集落と評価できよう。生産された玉類には、白玉、丸玉、管玉、勾玉があり、列挙した順の4番目までの遺跡でヒスイ製玉類の攻玉が確認できる。また本期の玉の素材に占めるヒスイの割合は、滑石と並ぶ観がある。

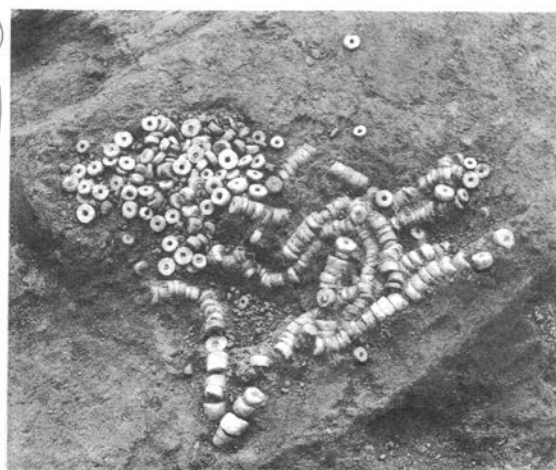
さて、ヒスイ製品を代表する大珠は、中期に盛行を極め後期前葉に終焉を迎えたと考えられている。その後ヒスイ製の小型玉類が活況を呈することから、かつてヒスイ製大珠の伝世、分割・解体説が説かれ<sup>26</sup>こともある。しかし天神台貝塚や余山貝塚の複数の未成品類を観察する



1～5.7：千葉県文化財センター調査 現在整理中  
6：報告書から改図転載

第9図 後期から晩期の玉類

1：妙経遺跡 2.3：御山-1遺跡 4.5.7：武士遺跡 6：殿台遺跡



第10図 晩期の玉の出土状況

御山-1遺跡：千葉県文化財センター調査

と、それぞれ質観が異なり、同一個体の分割とみる訳にはいかない。このような状況は仮に多量の大珠の分割の結果というなら有り得ることだが、中期の大珠の出土状況からは否定せざるを得ない。また「未成品として搬入された可能性」<sup>27</sup>も指摘されているが、数量も多くヒスイ産出地域との交易によって未成品と共に、原材料がもたらされたものと思われる。別の石材、例えば産出地が限定されている黒曜石にしても、原石が供給され、集落で石鏃等に加工されている。原材の産出地において、その資源の強固な管理・独占が行われるか、枯渇の心配がなければ、必要とする地域に供給が続いたはずであり、その意味ではヒスイも例外ではない。したがって、「原材料の入手ということにおいてのみ特殊な位置にあった」<sup>28</sup>ヒスイ産地に隣接した遺跡に限らず、ヒスイの攻玉は行い得るのである。ただ黒曜石等とヒスイを、受容者側の意識や目的、技術基盤、さらに生産集落の性格自体において同一視できないのは当然のことである。

武士遺跡と堀之内上の台遺跡ではヒスイ製の玉類の製作は認められず、油脂光沢をもった薄緑色の石材を素材にした玉の生産が行われている。この石材は前期の長者ヶ台遺跡の塊状耳飾で使用されていたものと同じで、特論のなかで高橋氏は、「比較的特徴のある滑石」としている。これまで考古学的な見地からは、「滑石は蛇紋岩の一部が変質して生じた岩石」であることから、原材採取の候補地に、蛇紋岩を産する嶺岡山地周辺を挙げていた<sup>29</sup>。しかし房総に産する蛇紋岩は「あまり滑石化しておらず、かなり硬い岩石」なので、必ずしも遺跡から出土する滑石とは一致しない。希少であったからこそ玉の原材となった、と仮に考えると、嶺岡山地周辺に未発見の場所があるのかもしれない。そうなれば、原材料産出地隣接型の攻玉遺跡になるだろう。次に最も多く出土している白玉の製作をみておくことにする。

**白玉の製作順序** ここでは天神台貝塚と武士遺跡の遺物を取り上げて説明する。

第11図の1は玉の素材として作出された剥片である。母岩は拳大内外と推測され、通常の剥離によって、目的とする玉よりも大きな剥片をとる。やや大きめの剥片は、切断などにより分割したであろう。2などがより白玉の大きさに適合する。

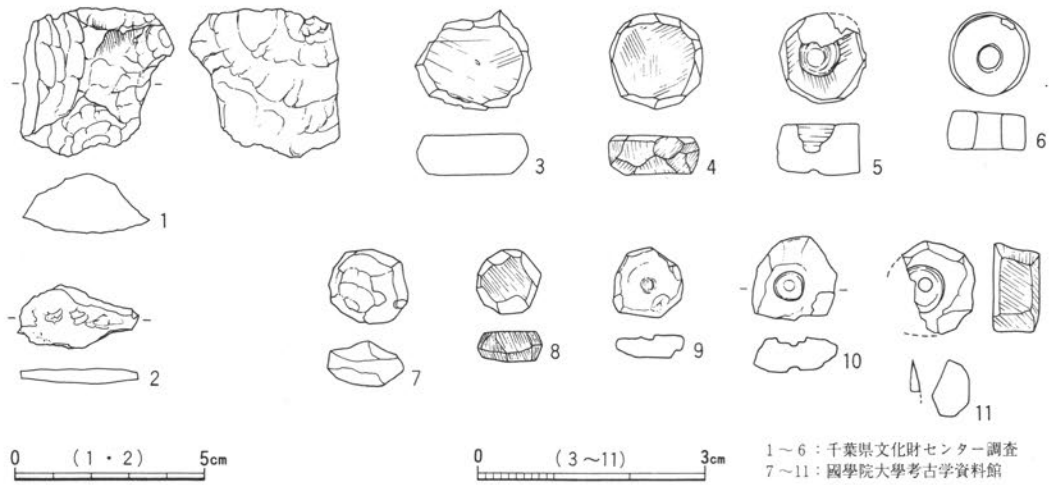
滑石のような軟質な石材では、剥片に対してすぐに表裏両面の研磨を行い、側面部に調整を加える。3は側面調整の途中段階である。7は硬質の石材であり、剥離によって整形が進められるが、まだ研磨は施されていない。

4・8は側面に研磨を施し、それまであった凹凸をなくし、平面形を円形に近づけていく。

続いて穿孔作業に移る。5は両面および周縁部の研磨が完了した後に穿孔に取りかかっているが、9・10では側面の調整が不完全でも穿孔が開始されている。5はかなり深くまで一方からの穿孔を進め、10は両側からほぼ同程度の進捗を計っている。石材の硬軟の違いと考えられるが、穿孔は基本的に両側から行われる。5・7は孔底に小さな凹部ができており、その断面形がUの字形を呈することから、先端に丸さのある錐によって穿孔されたことがうかがわれる。錐の種類と使用された材質の同定は難しい。穿孔途中のヒスイ製未成品のなかには、孔底



Ⅲ 各論



第11図 白玉の製作

1～6：武士遺跡 7～11：天神台貝塚

に「ヘソ」と呼ばれる凸部を残すものがある。土田孝雄<sup>30</sup>氏の実験などによれば、竹管による穿孔がヒスイに対して可能で、孔底に凸部が生じるという。竹管による穿孔の可能性は大きい。

11のように穿孔が完了すると孔壁の修整、仕上げの研磨が施され、成品となる。

最後に後期から晩期にかけての玉を取り巻く事情についてまとめておくと、玉の需要の増加に伴う生産増大という社会的要求が背景にあり、それにより成品の搬入や原材料搬入型の攻玉が拠点的な集落で行われ、南部地域においては原材料産地隣接型の可能性のある攻玉も興ったとすることができる。そして攻玉遺跡で生産された製品が供給されたのである。

第2表 縄文時代主要玉類

玉の種類	時 期					計
	早 期	前～中初	中～後初	後～晩	不 明	
状 耳 飾	0 (0)	31 (24)	9 (6)	0 (0)	23 (18)	63 (48)
大 珠	0 (0)	0 (0)	37 (27)	2 (1)	1 (1)	40 (29)
玉 斧	0 (0)	0 (0)	7 (5)	0 (0)	1 (1)	8 (6)
管 玉 (状)	1 (1)	6 (3)	2 (2)	7 (5)	4 (3)	20 (14)
垂 飾	1 (1)	4 (4)	51 (18)	42 (17)	12 (11)	110 (50)
勾 玉	0 (0)	0 (0)	6 (5)	27 (16)	4 (4)	37 (25)
白 玉	0 (0)	1 (1)	5 (1)	479 (14)	4 (3)	489 (19)
丸 玉	0 (0)	2 (2)	23 (2)	39 (5)	3 (3)	67 (12)
玉・小玉	0 (0)	5 (4)	16 (10)	21 (3)	5 (5)	47 (22)

上段は出土点数、下段の括弧内は遺跡数 点数不明はいずれも1点として集計

## D. まとめ

ここまで県内の玉類の蓄積を概括する形で述べてきたが、生産から流通を以下のように整理できるだろう。まず玉類の生産は、攻玉によるもの（仮にⅠ型と呼ぶ 以下同）と、簡単な補修や再利用での消極的な生産（Ⅱ型）がある。そして攻玉遺跡は、立地条件によって原材料産出地隣接型（A型）と、原材料産出地遠隔型（B型）が存在し、作られた玉類の流通の面からは自給自足型（a型）、供給型（b型）、自給供給併存型（c型）に分類することができる。

旧石器時代から縄文時代早期までの県内における玉類の発見例は乏しい。そのなかで旧石器時代に属する出口・鐘塚遺跡の垂飾は、体系化や組織化された生産でないことを別にすれば、小規模なⅠBa型生産の初現期の製品と見做すことができる。しかし、単発的で他に類例がないので実態は不明である。

玉類の獲得欲求の高まりは、前期になると顕著に現れ、県外のⅠAb・ⅠAc型で生産されたと考えられる玦状耳飾が各所で検出されるようになる。同時にⅡa型が行われるようになり、県南ではⅠAa型の可能性のある遺跡が出現する。

中期に盛行するヒスイ製大珠は消費の最終を示す形で遺跡から発見され、ヒスイ以外の素材を含めると大珠は40個が確認できた。いずれもⅠAb型あるいはⅠAc型の遺跡から供給されたものである。一般にこの時期の玉類の入手はⅠA型の遺跡からの供給に頼る傾向が看取され、銚子市に所在する粟島台遺跡は、コハクと結びついた本県で唯一のⅠAb型の遺跡で、その頼りの一端を担っている。

後期から晩期にかけては小型玉類の発見機会が多く、連珠の普及による需要の増大をうかがうことができる。それに呼応して、県外からの成品搬入ばかりでなく、県北の拠点的な集落においてⅠBc型の生産が展開し、南部地域でも滑石と結びつくと考えられる、ⅠAc型生産遺跡の形成が認められるのである。ただこの問題については、前期のⅠAa型の遺跡とともに今後岩石学的検証を必要としている。

以上時期の推移にしたがい、出土玉類と生産の在り方の一部を追ってみたが、工房についてふれなかったのでここで一言述べることとする。本県に所在するⅠA型あるいはⅠB型の8か所の遺跡では、確実に工房と認め得る竪穴住居は未発見である。将来検出される可能性をもつ遺跡もあるので、早急に判断は下せないが、現時点では、縄文時代の玉生産が非生業的性格であり、また屋外における作業でも十分に対応できると考えられるため、製作空間としての上屋を有する工房の必要性は薄いと思っている。

今回のように県内だけの玉を対象に置いてみても、研究領域が多方面にわたることが改めて理解できた。しかし、玉の個別研究にしても製作技法についても、それぞれを掘り下げて論ずるまでには至らなかった。ただ幾つかの課題を抽出できたことが成果であろう。

### Ⅲ 各 論

#### 註

1. 青木 豊 「縄文時代の玉類」 [文献202]
2. 寺村光晴 「縄文時代の攻玉遺跡」 [文献296]
3. 北総のほぼ中央部に位置する四街道市物井字出口に所在し、1987年に千葉県文化財センターが発掘調査を実施した遺跡である。整理作業が途中であるため(1992年3月時点)、詳細は明かでないが、成果の一部については文献385において紹介されたほか、全体的な概要は下記にふれられている。  
千葉県文化財センター 「四街道市池花南遺跡・御山遺跡・出口・鐘塚遺跡」 『昭和62年度千葉県遺跡調査研究発表会発表要旨』 1988
4. 出口・鐘塚遺跡(前掲註3)の北東約900mの位置に所在し、1984年に千葉県文化財センターが発掘調査を実施した遺跡である。立川ローム層中の石器群、古墳時代の遺構をはじめ、縄文時代晩期の良好な土器が出土している。また縄文時代の遺構としてはピット群や土壌が検出されており、その土壌の1基から多量の白玉が出土した。
5. 土肥 孝氏は、出口・鐘塚遺跡の「垂飾様石製品」について述べるなかで、「穿孔品特有の錐などの整形具による回転痕はなく、平行する擦痕が走っており、穿孔品と断定するには躊躇を感じる」とし、有孔装身具とするには「なお検討を要する遺物」と位置づけている。[文献405]
6. 1990年千葉県文化財センター調査。現在整理中。
7. 文献409
8. 文献230
9. 文献234
10. 長者ヶ台遺跡の玉類のうち、立教大学考古学研究会が紹介した吉野忠衛氏収集資料 [文献125] と、1973年に行われた調査で出土したもの [文献108] については、橋口定志氏のご教示により、勝浦市教育委員会において実見し、同教委のご高配により実測させて頂いた。また1990年の調査で出土した第4図1に関しては、整理作業中のところ調査担当者である新井和之氏のご厚意により、実見する機会を得たうえ実測させて頂いた。
11. 寺村光晴氏は穿孔方法を、「回転による穿孔と、打撃すなわちタタキ法による穿孔」に大きく分類し、さらに回転による穿孔を「非連続的回転運動によるもの、連続的回転運動によるもの、連続的回転運動によるもの」に細別しており、もみ錐や回転の反復運動による穿孔法を「連続的回転運動によるもの」と呼んでいる。[文献73]
12. 前掲註11において寺村氏が概略を述べ、藤田富士夫氏が具体例を示して解説している。基本的には「工具を指先に持ち、手首をよじって抉り取る方法」とされる。[文献221]
13. 稲野祐介ほか 『滝ノ沢遺跡』 岩手県北上市教育委員会・北上考古学会 1983
14. 田村 隆氏は流山市上貝塚遺跡・若葉台遺跡から出土した特殊な石器を「円盤型磨製品」と呼んで、滝ノ沢遺跡(前掲註13)との類似を指摘している。[文献302]
15. 文献6
16. 寺村光晴氏は大珠を、鰹節形、緒締形、石斧形、不整形に分類している。[文献37]
17. 藤田富士夫 「硬玉の加工遺跡」 [文献372]
18. 文献418
19. 文献104
20. 長径160cm、短径110cm、深さ13cmの楕円形を呈する土壌である。白玉は土壌の北に寄った位置から出土し、大半が原位置を保って連珠状に連なった状態で検出され、一部がばらけた状態で周辺に散在する。荒海式期に比定される。

21. 文献30、文献296のほか、小野良弘氏が長年にわたって収集された資料が最も充実して注目される。この資料は現在國學院大學考古学資料館に移管されており、同資料館のご厚意により実見し、一部について実測させて頂いた。〔文献406〕
22. 國學院大學考古学資料館の小野良弘氏旧蔵資料に基づく。
23. 文献441
24. 千葉県文化財センター調査。現在整理中
25. 文献174
26. 前掲註15に同じ。
27. 藤田富士夫氏は「千葉県や長野県などでも硬玉未成品が検出されているが、数は少なく、そこで加工されたというよりも未成品として搬入された可能性もある」と考えている。前掲註17に同じ。
28. 西田正規 「生産と消費 専門化の程度」 〔文献375〕
29. 前掲註2に同じ。
30. 土田孝雄 「硬玉加工の実験的考察」 〔文献204〕

## 2. 弥生時代の玉

弥生時代の墳墓以外の玉類出土遺跡数は、県内で23遺跡しかなく、確実な玉作遺跡・遺構は確認できなかった。発端となった『千葉県生産遺跡詳細分布調査報告書』<sup>1</sup>でも、該期の玉作遺跡は確認されていないので予想された結果といえる。また、1982年の『房総風土記の丘年報』<sup>2</sup>に「房総出土の古代の玉」のなかで小川和博氏が弥生時代の玉を端的に、かつ要領よくまとめている。<sup>3</sup>

弥生時代の玉は、碧玉質（緑色凝灰岩）の管玉、ガラス製の小玉類の出現がみられる点で縄文時代の玉と区別され、技術的にも古墳時代の玉作と同質であることからその前段階的なものとして受けとめられている。<sup>4</sup>弥生時代を特色づける管玉に関しては、九州・四国・畿内の西日本、山陰・北陸・佐渡地方では製作遺跡が検出されている。同様にガラス・ヒスイ等の玉類製作遺跡は国内各地から検出されているが、千葉県には確実な玉類の製作遺跡は検出されていない。

県内の玉の出土は、集落遺跡の竪穴住居からのものがほとんどで、玉の種類は勾玉・管玉が主体である。勾玉はコハク・ヒスイ・滑石製で、管玉は緑色凝灰岩（碧玉を含めて）製が大部分である。これらの中からコハク製の勾玉に注目してみたい。コハク製勾玉は、県内で2遺跡の2遺構から出土している。銚子市佐野原遺跡<sup>5</sup>の竪穴住居から2点、市原市椎津茶ノ木遺跡<sup>6</sup>の竪穴住居から2点であり、全国的にもこの2例しかないとみられる。銚子市佐野原遺跡の例は出土状況から時代が下る可能性を指摘する論もあるが、市原市椎津茶ノ木遺跡の例は、中期宮ノ台式期の竪穴住居からコハク製の勾玉2点、玉4点、破片4点とまとまって出土しており、コハクの玉の出土が優越している。本遺構が玉作に関連するのかはよくわからないが、これか



ら同様な遺構の例は増加しても良いだろう。

また、この時期に特徴的にみられる鉄石英製の管玉は、鉄石英の産出地が限定されていることから、将来流通経路や製作遺跡の追求によって、その解明の糸口がつかめるかもしれない。

最近の論文で、山本哲也氏の「西上総における古墳時代中期の玉作」において、今までの資料では古墳時代の石製模造品製作遺跡として扱っている、君津市下荘台遺跡について滑石の模造品製作遺跡ではなく、弥生時代後期の勾玉の製作遺跡の可能性があると指摘がなされている。今回の集成表では従来通りの取り扱いをしたが、このことが確実ならば、本県では初の弥生時代の玉作遺跡となろうし、今まで玉作とは縁の薄いとみられがちであった千葉県南部の上総地区での玉作遺跡の検出となる。坂詰秀一氏の報告以外に資料がないのが残念であるが、今後本遺跡の調査の機会があるかもしれないし、周辺遺跡で弥生の玉作工房が検出されるかもしれない。今後の資料の増加に期待するばかりである。

#### 註

1. 文献296
2. 文献202
3. 小川和博 「房総出土の古代の玉 III 弥生時代の玉類」 「文献202」
4. 藤田富士夫 「II 各時代の玉文化の特色 弥生時代」 「文献372」
5. 文献120
6. 文献442
7. 山本哲也 「西上総における古墳時代中期の玉作～文協遺跡の例を中心として～」 「文献427」

### 3. 古墳時代の玉作

#### (1) 千葉県内の玉作遺跡について

##### A. 千葉県内の玉作関係遺跡とその研究のあゆみ

今回の文献等による資料調査により、玉類等の出土遺跡334遺跡、玉類の製作工房34遺構、石製模造品の製作遺構121遺構が確認された。発掘調査による出土資料が主体となるため発掘調査の頻度による影響が反映されるのは仕方がないが、遺跡数を地区別にみると北総地区に圧倒的に多く出土遺跡数の約7割を占め、上総・安房地区に少ない傾向がみてとれる。全体的な傾向は以上のようなものであるが、石製模造品を出土した祭祀遺跡についてみるとこれとは逆に上総、安房地区に多く下総地区に少ないということがいえる。これについては、石製模造品を出土した遺跡に限定して抽出したことと、明らかに祭祀遺構であるという確証が得られるものが少なかったために、総計19遺構しか確認されていないことから全体的傾向をつかむのは難しいといえよう。19遺構のうち複数の遺構の検出された遺跡は、佐原市綱原遺跡<sup>1</sup>で2遺構、木更津市マミヤク遺跡<sup>2</sup>で2遺構、安房郡白浜町小滝涼源寺遺跡<sup>3</sup>で6遺構があげられる。

玉類の出土する遺跡というと古墳に代表される墳墓等からの玉類の出土を忘れることはでき

### Ⅲ 各 論

ない。今回の研究紀要の編集作業の当初において墳墓等からの玉類の出土については取り上げないこととして作業を進めたので、古墳等の出土品としては特別な例を除いて集成・分析・検討は行っていない。ただし、生産された玉類の最も重要な消費遺構である墳墓類からの出土を無視して玉類の生産は語れないと思われる。

玉作工房は、成田市で19軒、下総町で12軒の計31軒となり、今回確認の全34軒の9割を占め、成田市八代、外小代、大竹、香取郡下総町大和田地区に玉作工房が集中している状況が知られる。その他の地区では市原市で1軒が検出されているのみで、栄町、富津市の例は工房の検出ではなく、未成品が表採されたことにより工房の存在の可能性が示唆されたものであるため遺構としては確認されていない<sup>4</sup>。つまり利根川南岸の下総町大和田玉作遺跡群とでも呼ぶべき一群と、印旛沼東岸の成田市八代（周辺）玉作遺跡群とでも呼ぶべき一群とに大きく分けられる。両者は共に、『和名抄』に記載のある下総国埴生郡玉作郷との関係に注目され、いくつかの論考もされている<sup>5</sup>。県外ではあるが茨城県稲敷郡江戸崎町桑山上の台遺跡<sup>6</sup>にも玉作工房が確認されている。一方、上総国に属する、市原市草刈六之台遺跡<sup>7</sup>検出の玉作工房は報告書が刊行されていないため、その詳細は明かではない。

調査・研究対象として玉作遺跡が発見されたのは、成田市八代字花内の後に八代玉作遺跡として千葉県指定史跡に指定される地区からであった。1962年に八代玉作遺跡調査団が組織され第1次発掘調査が実施され、玉作工房を1軒検出、調査した。翌1963年に第2次調査が実施され2軒の工房他が調査された<sup>8</sup>。一方石川県の加賀市片山津玉作遺跡の発掘調査も1955年に実施されており、玉作遺跡の重要性が認識されはじめた頃であった。この八代遺跡の成果に基づいて1967年に千葉県は八代遺跡を八代玉作遺跡として指定した。また、地元の研究者によって香取郡下総町大和田の台地上にも玉作に関連した遺物が出土することが知られ、1969年に予備調査、1970年に千葉県教育委員会によって第1次・第2次調査が実施され工房の検出・調査に至った<sup>10</sup>。その後、1971年から外小代遺跡、八代遺跡の調査が実施され、玉作工房が多数検出され報告書が『公津原Ⅱ』<sup>11</sup>として刊行されている。

成田市大竹遺跡は成田市教育委員会が実施した1972年の分布調査の際に玉作遺跡であることが確認され、1974年に発掘調査が一部実施され、玉作工房が検出されている<sup>12</sup>。

現在のところ上総で調査された唯一の玉作遺跡である市原市草刈六之台遺跡は1983年に重層的な遺構の中から工房が1軒検出され、緑色凝灰岩製の管玉を製作していたことが確認された。

#### B. 印旛沼東岸地域の玉作遺跡（第13図）

印旛沼東岸地域には、玉作関係遺跡が集中してみられ、南から順に成田市八代遺跡（八代玉作遺跡<sup>13</sup>）、外小代遺跡<sup>14</sup>、大竹遺跡の3か所の遺跡があげられる。さらには、石製模造品製作遺跡も比較的多く成田市石塚遺跡、八代遺跡、外小代遺跡、大竹遺跡、印旛郡栄町前原Ⅰ遺跡、龍角寺ニュータウン遺跡群No.4地点、酒直遺跡第3地点の7か所の遺跡がみられる。また龍角

3. 古墳時代の玉作

第3表 市町村別玉作関係遺跡検出状況

番号	市町村名	遺跡数	前期	中期	後期	奈良平安	不明	玉作	工房	整六住居	祭祀	他
1	関宿町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	野田市	5	4	6	0	0	1	0	4	5	1	1
3	柏市	12	0	10	2	1	4	0	0	13	0	4
4	流山市	2	0	0	1	1	0	0	0	2	0	0
5	我孫子市	6	1	1	24	1	2	0	0	27	0	2
6	沼南町	6	3	3	12	0	2	0	1	17	0	2
7	松戸市	4	0	2	2	0	2	0	1	2	0	3
8	印西町	5	1	1	0	0	3	0	2	2	0	1
9	栄町	12	0	6	34	0	5	1	4	35	0	5
10	本埜村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	成田市	21	17	17	18	3	10	19	10	28	1	7
12	鎌ヶ谷市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	市川市	2	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0
14	船橋市	5	0	26	26	0	2	0	11	37	0	6
15	白井町	4	2	5	2	0	1	0	4	5	1	0
16	八千代市	5	0	21	3	0	2	0	20	5	0	1
17	印旛村	6	0	10	9	0	0	0	3	16	0	0
18	佐倉市	20	7	23	52	8	13	0	15	78	0	10
19	酒々井町	1	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0
20	富里町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21	浦安市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22	習志野市	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
23	四街道市	7	0	5	19	0	3	0	2	23	0	2
24	八街町	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
25	佐原市	12	0	2	11	0	5	0	6	5	2	5
26	下総町	25	1	7	6	0	17	12	10	3	1	5
27	神崎町	2	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1
28	小見川町	4	3	0	1	0	1	0	1	3	0	1
29	東庄町	3	1	0	0	0	5	0	1	2	0	3
30	大栄町	2	0	3	0	0	2	0	2	2	0	1
31	栗源町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
32	山田町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
33	干潟町	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
34	海上町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
35	千葉市	38	3	33	91	8	53	0	14	154	0	20
36	芝山町	7	0	9	17	0	6	0	8	22	0	2
37	多古町	10	0	6	8	1	7	0	3	14	0	5
38	八日市場市	4	1	3	1	0	2	0	0	6	0	1
39	旭市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40	飯岡町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	233	44	202	340	26	151	32	124	511	6	90

番号	市町村名	遺跡数	前期	中期	後期	奈良平安	不明	玉作	工房	整六住居	祭祀	他
41	鏡子市	5	0	0	6	0	6	0	0	7	0	5
42	山武町	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
43	横芝町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
44	松尾町	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
45	光町	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
46	野栄町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
47	成東町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
48	蓮沼村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
49	東金市	4	0	0	10	6	7	0	1	18	0	4
50	大網白里町	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
51	九十九里町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
52	市原市	33	15	8	44	4	44	1	0	71	1	42
53	長柄町	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
54	茂原市	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
55	長生村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
56	白子町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
57	長南町	2	1	0	0	0	2	0	0	0	0	3
58	睦沢町	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
59	一宮町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60	袖ヶ浦市	13	2	0	0	0	13	0	3	2	1	9
61	木更津市	14	2	13	9	0	21	0	1	37	2	5
62	君津市	7	0	0	0	0	7	0	1	1	0	5
63	富津市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
64	夷隅町	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
65	岬町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
66	大多喜町	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
67	大原町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
68	御宿町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
69	勝浦市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70	天津小湊町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
71	鴨川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
72	鋸南町	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
73	富山町	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
74	富浦町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75	三芳村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
76	丸山町	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
77	和田町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
78	館山市	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
79	千倉町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80	白浜町	2	5	1	0	0	1	0	0	0	6	1
	小計	94	25	22	69	10	115	1	6	136	11	87
	総計	327	69	224	409	36	266	33	130	647	17	177